

インターンシップ

担当者：竹淵 香織, 川村 良枝

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

インターンシップとは、在学中に自らの専門や将来のキャリアに関連した就業体験をすることである。幼稚園や保育園、施設、カウンセリングセンターなどの相談機関、または一般企業に研修生として働くことで、実際に施設や企業がどのような理念や目的を持って活動しているかを体験することを目的としている。この機会を通じ、自らの適性や社会が求める人材について知ることで、よりよいキャリア選択をするための準備をすることが望ましい。また、社会人として求められる基本的知識やマナーも学ぶ。

2.学びの意義と目標

「就業体験をすること」「自分の適性を知ること」「仕事とは何か、働くこととはどういうことかを知ること」「自分の適性を知ること」を目的とする。インターンシップに参加するための、基本的な知識の習得と準備をする。

準備学習(予習)

興味のある分野の仕事について情報収集をしておく

準備学習(復習)

インターンシップ（実習）にむけ、ビジネスマナーを習得する

授業計画

1. オリエンテーション
2. インターンシップに参加する目的・目標の明確化しよう
3. 自分の興味、適性を知ろう
4. 人に関わる仕事、人を支える仕事には何が必要とされるのか
5. 働くときに知っておくべきこと、心得ておくこと
6. ビジネスマナー演習（身だしなみ・ふるまい）
7. ビジネスマナー演習（言葉）
8. ビジネスマナー演習（文書・電話）
9. ビジネスマナー演習（人間関係）
10. 講演（保育士・幼稚園教諭）
11. 講演（カウンセラー）
12. 講演（一般企業）
13. インターンシップに向けての心構え（再度目的・目標を確認）
14. インターンシップに向けての心構え（スケジュール確認）
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出席:30%
- (2)平常点:30%:演習への参加、小レポート
- (3)学期末レポート:40%

栄養学(食品学を含む。)

担当者：大江 敏江

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義は、三大栄養素（糖質、タンパク質、脂質） 微量栄養素（ビタミン、ミネラル） その他の栄養成分（水分や食物繊維など）について、その構造と消化・吸収・代謝システム、体内での機能、さらに、どのような食品に多く含まれどのように摂取することが好ましいかについて、理解できるように構成されている。また、栄養素の摂取量と消費量のバランス、体内での過剰状態や不足状態についても概説する。

2.学びの意義と目標

1. 食品と身体の双方に存在する栄養素の性質や機能に関する基礎知識を得ることができる。
 2. 健康な身体づくりのための、効率的な栄養素の摂取法を理解できる。
 3. 栄養素の摂取と消費のバランスが成長期の心身の健康・栄養状態に与える影響について、健康教育を実施し得る基盤をつくる。
- 以上により、栄養学の基礎的知識を整理すると共に、健康の維持・増進と疾病予防における食の重要性を理解し、子ども期の健康の維持・増進に働きかける保健科教諭の実践的な技能を身につける。

準備学習(予習)

次週の教科書の該当箇所を読む。

準備学習(復習)

(1)授業ノート、教科書、配布プリントの順に読み返し理解する。(2)重要と指摘された箇所はよく復習する。(3)小テストは返却後復習し、よく理解する。

授業計画

1. 栄養と健康（目標1）
2. 栄養素の消化・吸収・代謝（目標1）
3. 糖質とは何か（目標1）
4. 糖質の機能と効率的な摂取法（目標2）
5. タンパク質とは何か（目標1）
6. タンパク質の機能と効率的な摂取法（目標2）
7. 脂質とは何か（目標1）
8. 脂質の機能と効率的な摂取法（目標2）
9. ビタミンの必要性（目標1）
10. ミネラルの必要性（目標1）
11. 水分・食物繊維の必要性（目標1）
12. 栄養素の摂取量と消費量のバランス（目標2、3）
13. 日本人の食事摂取基準と食事バランスガイド（目標2、3）
14. 幼児期・学童期・思春期の栄養学（目標1、2、3）
15. まとめ（目標1、2、3）

教科書

吉田 勉 『わかりやすい栄養学』（三共出版）

評価方法

(1)受講態度:20% (2)授業内小テスト:20% (3)中間テスト:30% (4)期末テスト:30%
60%以上を合格とする。

家族療法入門

担当者：村上 純子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

家族心理学、家族療法の基礎を学び、人間関係や家族関係の問題の理解に役立てる。個人の心理、家族システムとしての機能、さらには家族を取り巻く社会システムなど、多角的に見ていく。

2.学びの意義と目標

「家族」は人間理解をする上で無視することのできない要素である。家族心理学の学びを通して、より深い人間理解を養い、現実生活に役立つ、知識を身につけることを目標とする。

準備学習(予習)

各回、文献の指定された箇所を読んでくること

準備学習(復習)

配布されたプリントをよく読み、書かれている内容を説明できるようにすること

授業計画

1. 家族とは何か
2. 家族療法の理論と基礎(1)
3. 家族療法の理論と基礎(2)
4. 家族のライフサイクルと危機(1) 結婚、夫婦
5. 家族のライフサイクルと危機(1) 結婚、夫婦
6. 家族のライフサイクルと危機(3) 思春期、青年期の家族
7. 家族のライフサイクルと危機(4) 成人期、老年期の家族
8. 社会の中の家族
9. 家族とジェンダー
10. ジェノグラムの基礎
11. ジェノグラムの作成と活用(1)
12. ジェノグラムの作成と活用(2)
13. 家族療法の技法(1)
14. 家族療法の技法(2)
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席・授業態度:20% (2)課題:40% (3)学期末試験:40%

学校保健概論(安全を含む。)

担当者：齊藤 理砂子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義は、学校保健の目的・意義、関係法規等を概説した上で、学校保健計画、学校環境衛生、救急処置活動等の学校保健全般に関わることを理解できるように構成されている。さらに、子ども期における発育発達と健康課題、それらを踏まえた保健管理、健康教育について学習し、実態に応じた学校保健活動が展開できるように必要な知識や技術を学べるように構成されている。

2.学びの意義と目標

1. 学校保健の意義、制度、領域について説明できる。
 2. 学校保健の関係法規について理解できる。
 3. 学校保健にかかわる組織、関係機関、関係職員の役割を理解し、説明できる。
 4. 学校保健の構造と関わる組織について考えることができる。
 5. 学校保健推進の方法を理解し、必要なプレゼンテーション能力を身につける。
- 以上により、子ども期の身体的な健康に携わる者として学校保健について理解し、さらに今日的課題について考察し、保健管理、健康教育につなげた実践が展開できるようになるための基礎力を身に付ける。

準備学習(予習)

事前に指示される内容について調べておくこと。

準備学習(復習)

指示された内容について学習すること。

授業計画

1. ガイダンス (目標 1)
2. 学校保健概説 (歴史的変遷・意義・関連法規) (目標 1. 2)
3. 学校保健概説 (領域構造) (目標 4)
4. 児童生徒の発育発達と健康課題 (目標 3)
5. 学校保健計画 法的根拠と意義・内容 (目標 2)
6. 健康観察 意義 (目標 3)
7. 健康診断 意義、法的根拠、方法指導 (目標 2. 3)
8. 疾病管理 疾病の基礎知識 (目標 1. 3)
9. 感染症予防 感染症の基礎知識、種類、処置 (目標 1. 3)
10. 感染症予防 感染症の基礎知識、種類、処置 (目標 1. 3)
11. 学校環境衛生 法的根拠、学校環境衛生検査の実際 (目標 1. 2. 3)
12. 学校健康相談活動 学校医・学校歯科医・養護教諭の行う健康相談 (目標 1. 3)
13. 学校安全計画・危機管理 児童生徒の災害の実態・安全教育 (目標 1. 3. 4)
14. 学校保健組織活動 意義・組織 (教職員・児童生徒・地域) (目標 4)
15. まとめ (学校保健の今日的課題) (目標 1. 2. 3. 4)

教科書

教員養成系大学保健協議会 『学校保健ハンドブック』(ぎょうせい)

評価方法

- (1)課題発表:30%
- (2)授業振り返りレポート:20%
- (3)まとめのレポート:50%

体のしくみ・働き

担当者：菊川 忠裕, 吉田 俊爾

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

本講義は、保健科教諭として健康教育を行っていく上で、重要な細胞の構造、生命を維持するための機能（植物性機能）と外界の変化に反応するための機能（動物性機能）を人体の生理機能から学ぶ構成としている。

2. 学びの意義と目標

1. 骨格の構造と働きが理解できる。
 2. 細胞の構造、生命を維持するための機能（植物性機能）である、心・脈管系、呼吸器系、消化器系や腎・泌尿器系の解剖学的構造を把握し、それらと関連した機能を理解できる。
 3. 外界の変化に反応するための機能（動物性機能）を構成する、感覚機能、運動機能およびそれらを統御する中枢神経機能や内分泌機能を、疾患とも関連付けて理解できる。
 4. 動物性機能に関わる神経・筋・感覚器の構造について理解できる。
- 以上のことから、健康教育を行う教員の基本的な知識である体のしくみと働きを理解し、健康の維持増進のための複雑な事象を科学的にとらえる態度を育てる。

準備学習(予習)

授業計画を参照し、教科書の該当箇所を、予め読んで疑問点などメモしておくこと。

準備学習(復習)

授業中に示されたキーワードや大切だと強調した箇所は復習して、理解を確実にすること。なお、疑問点はメモして、教科書や参考書で調べ、それでも不明な点は次回に質問すること。

授業計画

1. 保健科教諭にとっての解剖学・生理学とは（担当：吉田）
2. 骨格および骨の働き（担当：吉田）
3. 心臓および脈管系の構造と働き（担当：吉田）
4. 気管支および肺の構造と働き（担当：吉田）
5. 消化管の構造と働き（担当：吉田）
6. 肝臓・胆のう・膵臓の構造と働き（担当：菊川）
7. 腎臓の構造と働き（担当：菊川）
8. 尿管・膀胱の構造と働き（担当：菊川）
9. 代謝と体温（担当：菊川）
10. 内分泌系の構造と機能（担当：菊川）
11. 神経の興奮と伝達のしくみ（担当：菊川）
12. 脳の構造と機能（担当：菊川）
13. 末梢神経系の構造と機能（担当：菊川）
14. 感覚器官の構造と機能（担当：吉田）
15. 筋の構造・筋収縮と運動制御のしくみ（担当：吉田）

教科書

文部科学省 『『中学校学習指導要領』』（文部科学省）

評価方法

(1)授業への参加状況・課題作成:60% (2)定期試験・レポート:40%

環境衛生学

担当者：中村 馨男

開講期：春学期 必修・選択：選択科目/必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義は、水、空気、食品、日光、住居など、我々の周囲の環境と健康との関係について概説した上で、放射能の問題、公害の問題から環境汚染と健康の問題、および地球環境問題と健康の問題まで理解できるように構成している。

2.学びの意義と目標

1. 水と健康の問題を理解できる。
2. 食品と健康の問題を理解できる。
3. 住居と健康の問題を理解できる。
4. 放射能と健康の問題を理解できる
5. 公害と健康の問題を理解できる。
6. 地球環境問題への理解が深まる。

以上の学びを通して、健康と環境との関わりの深さを学び、保健科教諭に期待される健康維持や健康増進のための基礎知識を身につける。

準備学習(予習)

教科書の該当範囲については、予め、目を通しておくこと。

準備学習(復習)

講義中に強調した箇所、キーワード、終了時の小テスト、および、返却された前回の小テストで出来なかった箇所は、よく復習しておく。

授業計画

1. 環境と健康
2. 水と健康、上水道普及と感染症
3. 上水処理法と水道水の水質基準
4. 下水道の目的と下水処理法
5. し尿処理と廃棄物処理
6. 食中毒(1)微生物を原因とする食中毒
7. 食中毒(2)自然毒および化学物質.
8. 住居の環境衛生(1)温熱条件・熱中症
9. 住居の環境衛生(2)二酸化炭素・一酸化炭素・換気
10. 電離放射線、紫外線、マイクロ波、レーザー光
11. 環境の化学的条件
12. 公害と環境汚染(1) (環境基本法・大気汚染)
13. 公害と環境汚染(2) (水質汚濁と公害病)
14. 地球環境問題 (温暖化、オゾン層破壊ほか)
15. まとめ

教科書

鈴木庄亮・久道茂 『『シンプル衛生公衆衛生学』』 (南江堂)

評価方法

- (1)授業への参加度および課題へ取り組み:30%:積極性、着席位置
- (2)毎回の小テスト:30% (3)定期試験:40%

担当者：藤田 明

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

我々は多種多様な音に囲まれて生きている。その多様な音の中で音楽は、人の心を落ち着かせ、安らぎを与えてくれる。本講義は、沢山のクラシック音楽に触れる機会を提供していく。また、これらの曲をとおして"聞くアート"を味わい楽しめるようになることを目指している。

2.学びの意義と目標

今まで無意識に聞いていたであろう音楽を使い方によって心に影響を与える多くの内容を含んでいることに気が付く。と同時に、音楽によって感動する心を豊かにしていくことを目的とする。

準備学習(予習)

授業計画を参照し、次の授業で鑑賞する曲について調べておく。

準備学習(復習)

授業で鑑賞した曲の感想をノートにまとめておく。

授業計画

1. 授業の進め方について説明する。
2. 気持ち自然に弾んでくるような音楽について学び、それに適した音楽を鑑賞する(1)
3. 気持ち自然に弾んでくるような音楽について学び、それに適した音楽を鑑賞する(2)
4. 気持ち自然に弾んでくるような音楽について学び、それに適した音楽を鑑賞する(3)
5. 気持ち自然に弾んでくるような音楽について学び、それに適した音楽を鑑賞する(4)
6. 心に安らぎを与え、また、心に落ち着きを与えるような音楽について学び、それに適した音楽を鑑賞する(1)
7. 心に安らぎを与え、また、心に落ち着きを与えるような音楽について学び、それに適した音楽を鑑賞する(2)
8. 心に安らぎを与え、また、心に落ち着きを与えるような音楽について学び、それに適した音楽を鑑賞する(3)
9. 心に安らぎを与え、また、心に落ち着きを与えるような音楽について学び、それに適した音楽を鑑賞する(4)
10. 心に安らぎを与え、また、心に落ち着きを与えるような音楽について学び、それに適した音楽を鑑賞する(5)
11. 気持ちがおおらかになるような、また、豪華な気分になるような音楽について学ぶとともに、それに適した音楽を鑑賞する(1)
12. 気持ちがおおらかになるような、また、豪華な気分になるような音楽について学ぶとともに、それに適した音楽を鑑賞する(2)
13. 気持ちがおおらかになるような、また、豪華な気分になるような音楽について学ぶとともに、それに適した音楽を鑑賞する(3)
14. 気持ちがおおらかになるような、また、豪華な気分になるような音楽について学ぶとともに、それに適した音楽を鑑賞する(4)
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)試験:40% (2)ノート提出:30% (3)出席:30%

キャリアデザインA

担当者：専任教員

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

キャリアデザインとは、自分自身の生き方を見つめ、将来をどのように設計していくのかを考えることである。設計にあたっては、1.人間関係形成能力、2.情報活用能力、3.将来設計能力

4.意思決定能力が求められる。本演習では、初年次の学習であることも考慮して、こども心理学科では、どのような学びができるのか、またどのような教員がどんな学びに面白さを感じているのかを教員の話提供を聞きながら考えてみる。その過程を通して、人間形成能力の基礎となる、人への興味と信頼を育てる。また、情報活用能力の基礎となる、調べる、まとめる、推論する力を養う。様々な人生観をもつ教員やこども心理学科で出会った学生同士のコミュニケーションを通して、お互いに傾聴し、語り合い、生きあう場があることを感じ取ることができる。

2.学びの意義と目標

- 1.さまざまな人生観をもつ教員の話に傾聴し、人の面白さを発見する。
- 2.話の内容を調べてみる、まとめてみる、その人がどんなことに面白さを発見している人かを推論してみることを通して、情報収集のための基礎力を養う。
- 3.学生個々人が、推論したことを語る場は、人が人の話を傾聴し、それぞれの個を生きあう場でもある。「場の臨床的機能」のメタ認知的枠組みを身体的に感じ取ることができる。
- 4.以上を通して、人を信頼し、人に面白さを発見し、人との関わりに動機をもち続けられる人間形成力の基盤を養う。

準備学習(予習)

毎週のプログレスノートの記入、関心を持った用語については、情報ツールなどを利用しつつ各自積極的に調べ、プログレスノートにまとめておく。

準備学習(復習)

毎週のプログレスノートの記入、関心を持った用語については、情報ツールなどを利用しつつ各自積極的に調べ、プログレスノートにまとめておく。

授業計画

- 1.こども心理学科とは何を学べるところか？1：学科理念および教育課程等、（学生の学びの期待調査）
- 2.こども心理学科の教員1（何に興味がある人だろう？話題とキーワードを手がかりに調べてみる）
- 3.こども心理学科の教員2（何に興味がある人だろう？話題とキーワードを手がかりに調べてみる）
- 4.グループディスカッション（こども心理にはどんな教員が住んでいる？それぞれの推論を語ってみよう）
- 5.これまでの学びのまとめ（アドバイザークラス：学生個々への対応）
- 6.こども心理学科とは何を学べるところか2（講話）：人の喜びや、悲しみ、痛みなどに寄り添うことの意味ってなんだろう？
- 7.こども心理学科の教員3（何に興味がある人だろう？話題とキーワードを手がかりに調べてみる）
- 8.こども心理学科の教員4（何に興味がある人だろう？話題とキーワードを手がかりに調べてみる）
- 9.グループディスカッション（こども心理にはどんな教員が住んでいる？それぞれの推論を語ってみよう）
- 10.これまでの学びのまとめ（アドバイザークラス：学生個々への対応）
- 11.こども心理学科とは何を学べるところか？2（講話）：カウンセリング・マインドって何だろう。
- 12.こども心理学科の教員5（何に興味がある人だろう？話題とキーワードを手がかりに調べてみる）
- 13.こども心理学科の教員6（何に興味がある人だろう？話題とキーワードを手がかりに調べてみる）
- 14.グループディスカッション（こども心理にはどんな教員が住んでいる？それぞれの推論を語ってみよう）
- 15.こども心理学科とは何を学べるところか？3（講話）：人間福祉学部と大学理念に込められた人格形成の願い（学生の学び期待調査）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業内で課された課題と授業内での取り組み態度（プログレスノート含む）:60% (2)講話時のレポート:40%

キャリアデザインB

担当者：専任教員

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

こども心理学科での科目の学びや、紹介される職業の概要を聞き、興味があったものについては、積極的に情報を集め、分析する力を育てる。

2.学びの意義と目標

キャリアデザインAに引き続き、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力を育てる。

準備学習(予習)

興味を持った仕事について、情報収集をする

準備学習(復習)

興味をもった内容、調べた内容をプロGRESSノートにまとめる

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.心理士の仕事 スクールカウンセラー
- 3.心理士の仕事 産業カウンセラー
- 4.心理士の仕事 健康カウンセラー
- 5.グループセッション(アドヴァイザーグループ)
- 6.心理士の仕事 療育・個別訓練
- 7.教員の仕事 特別支援教諭
- 8.教員の仕事 保健科教諭
- 9.グループセッション(アドヴァイザーグループ)
- 10.保育士の仕事、児童福祉士の仕事
- 11.公務員の心理職 児童相談所等
- 12.心理を生かせる企業
- 13.グループセッション(アドヴァイザーグループ)
- 14.キャリアデザインってなんだろう？
- 15.まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)平常点:30%:出席、参加度 (2)ノート作成:30%:プロGRESSノート
(3)期末レポート:40%

キャリアデザインC

担当者：専任教員

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

キャリアデザインCは、中グループ活動に重点を置く。中グループはキャリアデザインBに引き続き、受講者の関心に従って選択されるものであり、進学・公務員・心理士の仕事のグループ、子ども関係の仕事のグループ、一般企業就職のグループに分かれるものとする。

2.学びの意義と目標

こども心理学科卒業後にどのような進路があるか、そのために大学在学中に何を学ばなくてはならないのか、具体的なイメージを持つことを目指す。

準備学習(予習)

大学卒業後のイメージを持つべく、情報収集を行うこと。

準備学習(復習)

各グループにおいて課題が課される。

授業計画

1. ガイダンス及びグループ希望調査
2. アドバイザーグループ
3. 中グループ
4. 中グループ
5. 中グループ
6. 小グループ
7. 中グループ
8. 中グループ
9. 中グループ
10. 小グループ
11. 中グループ
12. 中グループ
13. 中グループ
14. 中グループ報告会
15. アドバイザーグループとまとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業への参加度:100%

教育学

担当者：石津 靖大

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

現代の日本の教育と学校の実態を整理することから始める。次に近代学校の成立を見て、学校の役割・機能について考えてみる。さらに、教科書の歴史を通して、教育と学校の役割・機能について考える。学校教育から一転して、日本の子育ての習俗についてあれこれ見て、教育観を幅広く考えてみる。これを導入として、人の特徴や発達とのかかわりで教育を考えてみる。そして、教育市場大きな影響を与えたルソーとペスタロッチの教育思想を学習する

2.学びの意義と目標

- 1)日本の教育と学校の現状を整理して理解できる。
- 2)教育と学校の役割・機能と課題について考えを深める。
- 3)教育学校教育だけでなく、幅広く子育ての視点から考える。
- 4)教育とは何かを、人の発達や特徴との官界から考える。
- 5)教育と学校についての基本的事項を知ること目標とする。

準備学習(予習)

授業計画を参照し扱われる章節について、教養的な教育図書や教育新聞等によって知識や情報を得ておく。

準備学習(復習)

授業での教材を再読し重要な用語・事項について、教職用の教育用語集などによって確認しノート整理する。

授業計画

1. 授業の目的・内容・方法について
2. 現代の教育の実態
3. 現代の教育の実態
4. 学校の役割・機能
5. 学校の役割・機能
6. 教科書とその歴史
7. 教科書とその歴史
8. 子育ての習俗の教育観
9. 子育ての習俗の教育観
10. 教育とは何か-人の特徴とのかかわり-
11. 教育とは何か-教育の目的とは-
12. ルソーの教育思想
13. ペスタロッチの教育思想
14. 教育と学校の任務
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業への参加状況:30% (2)提出課題:30% (3)定期試験:40%

教育原理

担当者：小川 洋

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本科目は教職の入門科目であり、教育についての基礎的知識をひと通り取り扱う。指定の教科書と各回配布のプリント資料などを利用して、教育心理、文化人類学、教育制度、教育法規、教育社会学、比較教育、教育史など、広範にわたるテーマを取上げていく。自分が興味をもったテーマについて関連図書などを参考にしてレポートも作成してもらう。

教育を「受ける」立場であった学生が、教育を「ほどこす」立場に立つためには、教育に対する考え方を根本から洗いなおすことが必要となる。これらの学習を通じて、社会にとって不可欠な営みとしての教育を捉え、教育に対して、より豊かな視野を獲得するように努めてもらう。

2.学びの意義と目標

- 1) 教育が生物としてのヒトを、人格をもった人に育てる営みであることを理解する(教育の本質および思想)。
- 2) 学校の歴史についての理解を深め、現代の学校の特徴や課題について考察する(学校の歴史と見方)。
- 3) 理性をもった存在としての人間の子どもの心身の成長の在り方についての理解を深める(人間の成長)。
- 4) 教育課程と教科・科目の構造および学習評価の基本知識を体得し、学校教育の性格を理解する(教育課程)。

準備学習(予習)

事前に次回の授業範囲を指定します。指定された範囲の教科書をよく読み、不明な点などを自分で調べて授業にでること。

準備学習(復習)

レポートを2本求めます。各単元の復讐をするなかで、もっとも興味をもったテーマについてレポートを準備するようにしてください。

授業計画

1. ガイダンス
2. 教育とは何か(1) ヒト固有の営みとして
3. 教育とは何か(2) 教育と教育もどき
4. 学校とは何か(1) 学校の歴史(古代から中世)
5. 学校とは何か(2) 学校の歴史(近代)
6. 学校とは何か(3) 日本における学校
7. ころとからだを育てる(1) ころ
8. ころとからだを育てる(2) からだ
9. よりよく教え、学ばせる(1) 教えること
10. よりよく教え、学ばせる(2) 学ばせること
11. 教育評価とはなにか
12. 授業の可能性
13. 学校の可能性
14. よりよい教育を求めて
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)小テスト:教科書の指定した範囲の予習・復習を前提とする:30%(2)レポート2本:授業で取り上げたテーマから関心をもったことを取り上げて作成:30%(3)期末テスト:40%

教育心理学

担当者：金谷 京子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本授業では、教育心理学に関する基礎的な知識を講義形式により紹介していく。さらに授業では講義に加えて、学んだ知識をもとにしたレポートの提出や、他の受講者の意見と自分の意見を対比するディスカッションを取り入れることを予定している。これらを通して、理論を教育場面での実践事例に関連づけていく。

2.学びの意義と目標

1) 子ども(障害のある子どもを含む)の発達と学習の過程に関する心理学的な基礎知識を習得する。
2) それらの知識を実際の子どもの理解を深めるために利用することができる。
3) 子どもの発達と学習の状態に応じた、適切な指導・支援の方法について自らで考えることができる。

準備学習(予習)

事前に教科書を読み、単元の予習をしておく。関連する研究知見を調べてみる。

準備学習(復習)

ノートをまとめて復習し、理解を深める。

授業計画

1. オリエンテーションおよび幼児、児童、生徒の発達の過程
2. 教育心理学の概観
3. 学習と動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 知識とスキルの獲得
6. 学習の転移
7. 個人差と個性
8. パーソナリティの理解
9. 学級集団と人間関係
10. 学習指導の形態
11. 測定と評価(1) 意義・目的
12. 測定と評価(2) 測定の方法
13. 障害のある子どもの心身の発達
14. 障害のある子どもの学習の過程
15. 障害のある子どもの支援

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)発表、小レポート等:60% (2)試験:40%

グリーフケア入門

担当者：平山 正実

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

人生のさまざまなライフ・ステージにおいて出会う悲しい出来事にどう対処するのか、また悲しんでいる人をどう支えるかを学びます。

2.学びの意義と目標

社会に出た学生が悲しい出来事に出会うとき、その悲しみにどう向き合うかを考えます。

準備学習(予習)

あらかじめ指定した教科書を読んでおく

準備学習(復習)

授業内容を与えられた教科書と照らし合わせて勉強すること

授業計画

1. グリーフケアとは何か
2. 異常な悲嘆反応
3. 子どもと死
4. 青年期と死
5. 壮年期と死
6. 高齢と死
7. ターミナルケア
8. 病死
9. 自殺
10. 災害死
11. グリーフケア方法論(1)
12. グリーフケア方法論(2)
13. グリーフケア方法論(3)
14. グリーフケア方法論(4)
15. グリーフケア方法論(5)

教科書

平山 正実 『見捨てられ体験者のケアと倫理 真実と愛を求めて 精神科医からのメッセージ』(勉誠出版)

評価方法

(1)出席:60% (2)レポート:40%

ケアリング実習（日常看護）

担当者：齊藤 理砂子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

本講義では、日常的な看護の基礎技術の習得を目的として演習を行う。身体的なニーズに加え、心理的、社会的なニーズをも念頭に置いた看護について理解できるように授業を展開する。

2.学びの意義と目標

- 1.子どもにおこりやすい日常的な症状について、総合的に判断し、そのケアをするための基礎知識を身につける。
- 2.授業計画に示した内容について、基本的な技術を展開することができる。
- 3.授業計画に示した内容について、説明することができる。

準備学習(予習)

事前に指示される内容について調べておくこと。

準備学習(復習)

指示された内容について学習すること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.感染予防（消毒、滅菌、手洗い）
- 3.環境整備（交換、ベッドメイキング）
- 4.バイタルサイン（意識、呼吸、脈）
- 5.バイタルサイン（体温、血圧）
- 6.活動と休息（移乗・移送、松葉杖歩行援助）
- 7.活動と休息（体位交換）
- 8.排泄（排泄介助、オムツ交換）
- 9.清潔・衣生活（全身清拭、足浴、寝衣交換など）
- 10.栄養と食事（食事介助、口腔ケア、経管栄養法）
- 11.与薬法（経口、直腸、血管内、粘膜からの与薬法）
- 12.電法（温電法、冷電法）
- 13.医療的ケアの援助
- 14.まとめ（感染予防・環境整備・バイタルサイン・活動と休憩）
- 15.まとめ（排泄・清潔・衣生活・栄養と食事・与薬法・電法・医療的ケア）

教科書

大吉 三千代, 東郷 美香子, 平松 則子, 鈴木 美和, 川島 みどり 『ビジュアル基礎看護技術ガイド』(照林社)

評価方法

(1)取り組みの態度:50% (2)実技試験:50%

担当者：和田 雅史

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要**1.内容**

現代社会に出現する青少年期の健康課題を取り上げる。社会構造や生活様式の変化とともに、子どもの発育発達や疾病構造に変化が起きていることに着目し、その成立要因の解明や予防の具体的方法について論じていく。特に学びの場である学校における教育保健学的観点から検討を加える。時代とともに、生活構造の変化によって私達の生活様式も変容していく。しかしながらその結果として身体の異常や歪みの出現、そして新たな疾病構造の変容をもたらした。そこでは、日々の身体活動や遊びのありかた、食生活の内容と食べ方、そして心のあり方やストレスの状況など精神の健康という様々な要因によって影響を受けているという視点から、子どもの身体の現状を考えていく。

従来、教育生理学の分野で研究されてきた「学齢期シンドローム」と呼ばれる子ども達の現状に目を向け、その研究成果を視野に入れて、子どもの健康問題を考えていく。

必ずしも簡易な医学的知識だけを受容することだけではなく、また予防教育という観点からだけではなく、子どもに即して健康の科学的認識を高めることにより、自己の健康をいかにして向上させることができるのか、また社会的にどのように子どもの健康や生命を守ることができるのかを検討していく。

講義では、子どもの生活現状に着目しつつ、なるべく身近にある子どもの健康課題を取り上げていく。

2.学びの意義と目標

現代社会に出現する個々の健康課題を理解すると同時に、今後予想される新たな健康課題にも対応できうる科学的認識の育成を図る。学校を中心として、地域、家庭が子ども達の健康の維持増進を図るヘルスプロモーションスクールを構想することにより、将来受講者自身が活動していく場を想定し、その位置づけの一助になると考えられる。同時に受講者自身の健康維持を図ることにより、健康で長命な生涯を継続できる方法を考えていく。

歴史的に見ても健康は、常に「病気の自己責任制」という考え方と、健康や生命は社会的に守られなくてはならないという「健康権」の狭間で論じられることが多かった。各自が、健康や疾病に対し、どのような意識で臨むかによって、今後の社会全体のあり方にも関わる内容でもある。社会を構成していく一員として、健康な社会を形成していく責任がそこには存在するのである。同様に個人生活においても近い将来には親となり、子を持つ立場になることを踏まえ、健康で豊かな発育発達と、子どもの健康を補完していく意識と知識を持たなくてはならず、授業を通じてそれらの育成を図ることが可能となる。

準備学習(予習)

授業計画を参照し、講義で扱われる内容について、事前に情報を集めて、授業に臨むこと。

準備学習(復習)

講義で扱った内容を検討し、次回の講義までに自身の考えをまとめておく。

授業計画

1. オリエンテーション - 青少年期の健康課題
2. ライフスタイルの変化と身体への影響
3. 生活リズムの変化と身体異常
4. 自然環境の変化と健康
5. 遊びや運動の変化と発育発達
6. 運動不足が及ぼす身体への影響
7. 運動の効果と運動障害
8. 食生活の変化と健康課題
9. 肥満とその予防
10. ダイエット - 形態誤認
11. アレルギーの増加とその背景
12. 感染症と予防対策
13. 現代生活と精神の健康
14. 青少年期のストレス
15. まとめとテスト、およびその解説

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業への姿勢:20% (2)出席:30% (3)筆記試験:50%

健康心理学

担当者：村上 純子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

健康には「肉体的、精神的、社会的、霊的」の4つの側面がある（WHOの定義による）。本授業では、健康生活に関わる心理（主に精神的・社会的側面）の基本的理解を深め、さらに健康生活（健康維持行動）を構築、支援するための心理学的理論を学習する。「認定心理士」資格では、「選択科目g」（臨床心理学・人格心理学）に区分される科目である。

2.学びの意義と目標

人間にとっての健康とはいかなるものか、健康心理学が目指すもの（健康の回復・維持・増進・疾病の予防を考え、生活習慣や行動などの改善をはかり、生活を豊かにしていくこと）を理解し、実践する手がかりを学ぶ。

準備学習(予習)

参考書は「健康心理学」（野口京子著/金子書房）。その他は授業の中で指示する。

準備学習(復習)

授業の中で紹介する参考資料などを用いて、知識と理解を深めるよう努力して欲しい。

授業計画

1. 健康と病気、その理解
2. 健康心理学の基礎理論
3. 健康行動と行動変容
4. 生涯発達と健康
5. ストレスと健康
6. ストレス・マネジメント
7. 健康とパーソナリティ
8. ネット社会と健康
9. 生活習慣と健康
10. 生活習慣と健康
11. 健康心理学的アセスメント
12. 健康教育 ブックレット計画
13. 健康教育 ブックレット作成
14. 健康教育 ブックレット完成
15. 期末まとめと課題

教科書

日本健康心理学会 『健康心理学概論(健康心理学基礎シリーズ)』(実務教育出版)

評価方法

(1)授業の出席・態度:20% (2)ブックレット:40% (3)期末試験:40%

公衆衛生学（予防医学を含む。）

担当者：中村 馨男

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目/必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

健康の維持増進に働きかけるための基礎となる公衆衛生に関する知識を身につけるため、本講義は、はじめに健康の概念から、保健衛生統計の意義とその理解の仕方まで概説する。次に、公衆衛生学では重要なテーマである感染症とその予防方法について解説し、疫学とは何であるのかについて理解できるように構成している。最後に、現代大きな問題となっている生活習慣病について触れ、成人保健の今日的課題が理解できるように構成している。

2.学びの意義と目標

1. 健康の定義、健康指標、および予防医学の概念について理解できる。
 2. 保健衛生統計について理解できる。
 3. 感染症とその予防について理解できる。
 4. 疫学の概念について理解できる。
 5. 成人保健について、生活習慣病とその予防、衛生行政の観点から理解できる。
- 以上の学びを通して、健康と環境との関わりの深さを学び、保健科教諭に期待される健康維持や健康増進のための基礎知識を身につける。

準備学習(予習)

教科書を必ず購入（「環境衛生学」と共通）し、次回の該当箇所を読んでおくこと。

準備学習(復習)

講義中のキーワード、前回復習問題の誤答箇所、当日の復習問題の疑問点などは復習のこと

授業計画

1. 健康の定義、健康指標、予防医学の概念
2. 人口静態統計・人口動態統計
3. 出生と死亡の動向
4. 生命表と平均余命・平均寿命
5. 医の倫理
6. 感染症とその予防
7. 免疫と予防接種、消毒
8. AIDSと性感染症
9. 疫学1．疫学とは何か
10. 疫学2．記述疫学と分析疫学
11. 生活習慣病とその予防
12. 健康増進、成人保健、老人保健
13. 地域保健、保健衛生行政
14. 医療保障、保健医療サービス
15. まとめ

教科書

小山洋ほか 編 『シンプル衛生公衆衛生学 2013』(南江堂)

評価方法

- (1)受講態度:30%:積極性、座席位置を含む
- (2)各回復習問題:30%
- (3)期末テスト:40%

こども学

担当者：金谷 京子

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義では、こどもに関する歴史から現代のこどもの問題について言及し、こどもが社会のなかで心身ともに健やかに育ち、学び、遊び、参加していくにはどのようにしていったらよいか、こどもの視点を大切にしながら考えていく。ことにこどもの心理的側面に言及し、心理学からみたこどもについて学ぶ。各自が調査したことをグループで討議しながら発表する体験も行う。

「認定心理士」資格では、「選択科目f」（教育心理学・発達心理学）に区分される科目である。

2.学びの意義と目標

こどもについて様々な知識を得ることに留まるのではなく、「こどもとはなにか」「こどもが健全に育っていくためにいかにするべきか」について考えていけるようにする。こどもの内面（心理）に着目しながらこどもにアプローチする視点をもつ。現代のこどもの問題について意見を述べられるようにする。

準備学習(予習)

課題を事前に調べてまとめノートを作成する。

準備学習(復習)

各授業でテーマとなった課題について、調べておく。

授業計画

1. こどもの起源とこどもを取り巻く社会の変化
2. 現代のこどもの問題と背景
3. 現代のこどもの問題への対応
4. 子どもの権利条約
5. こどもと遊び、こどもと保育
6. こどもと教育・福祉
7. こどもと医療・保健
8. 心理学からみたこども

教科書

プリントを配布する

特に教科書は使わず、単元に応じてプリントを配布する。

【参考書】子ども資料年鑑・日本子ども家庭総合研究所・KTC中央出版

評価方法

(1)発表:10%:グループワークでの発表 (2)レポート:50% (3)試験:40%

こども国際協力

担当者：田島 伸二

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

21世紀の世界を生きるためには国際協力活動が不可欠である。これは世界中の国々が、政治・経済・文化・教育・環境など日常生活や社会生活で、密接に深く結びついているからに他ならない。子ども国際協力の講義では、この国際の協力の中でも、特に子どもたちの文化や教育活動の現状をさまざまな文化や教育の具体的な実例を通じて、実感的におもしろく世界を理解できるように、また実際に国際教育関係で働くときに役に立つ理論やスキルをワークショップのスタイルで講義したい。一方的なものだけでなくおもしろく刺激的な双方向の実践的授業を行いたい。多くの情報をもとに自分で考え、自分の力で実行や課題などできる国境を超える能力を養成したい。

2.学びの意義と目標

(1) 国際協力活動を学ぶことは、自分が生きている世界への視野を大きく広げ、多様な価値観や豊かな創造性などを獲得するのに役立つ。とくに子どもたちへの国際教育や文化活動を理解することは、将来の職業としても、家庭人としても、地球人としてのありかたから考えても非常に重要な講義となる。 (2) 目標は子ども国際協力の世界を、頭でよく理解すると同時に、社会で実践できる力を多彩に形成することを目標にしている。とくに絵地図分析のワークショップを開催できる能力を身につけると、どのような機会にでも自由に活用できるようになるので、問題解決に対処できるたくましい力を養成したい。

準備学習(予習)

1. 配布資料や授業で指示のネット情報やTV番組での学習
2. 毎回、次回までの学習課題を出すので、それを踏まえて事前学習として講義を進める。

準備学習(復習)

前回の授業要旨と、調べたことや自分の意見などを自由に加えて提出する。

授業計画

1. はじめに子ども国際協力とはなにか？私の国際協力活動から
2. アジア地域で行ってきた教育協力や文化活動の実践（映像を見せながら）
3. グループ別絵地図分析ワークショップ（問題や提案の視覚化）
4. 絵地図分析の理論と実際をマスターする（個人とグループ別）
5. アジア・太平洋地域の文化教育活動がなぜおもしろいのか？
6. 子どもに向けての教育活動と創作活動の実際と課題
7. 国境を越えて、だれにもできる、子どもたちへの創作活動
8. どこでも役に立つコミュニケーションとはなにか？そのスキル
9. 識字教育（リテラシー）とはなにか、その課題と実践
10. 平和・環境活動の理論と子どもたちへの平和・環境活動を求めて
11. 子ども国際協役に役立つ楽しい教材制作－1
12. 子ども国際協役に役立つ実際の教材制作－2
13. 学生自身の自分の生き方について絵地図ワークショップ
14. 学生による諸活動や製作物についてプレゼンテーション
15. 未来へ伝えたいもの&まとめ

教科書

授業の中で指示する
参考資料として、環境絵本「大亀ガウディの海」の日本語版、英語版（希望者によって）をワークショップの中で使う。授業の中で具体的に購入について指示する。

評価方法

- (1)レポート:50% (2)出席:30% (3)学習態度:20%
期末考査は基本的にレポートで行う

こどもの危機対応

担当者：金谷 京子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

こどもにとっての危機をもたらす要因には、災害、事故、疾病、虐待、貧困、いじめ、事件、家庭崩壊、環境破壊などさまざまある。これらの危機にこどもが出遭ったときにこどもの心にもたらされる衝撃は大きい。こうした危機に出遭ったときに大人はどうケアしたらよいか、また、このような危機を回避する、あるいは被害を最小にとどめるにはどうしたらよいか検討していく。

2.学びの意義と目標

1. 天災や人災に対する危機意識をもつ
2. こどもの危機予知ができるようにしていく
3. リスクマネジメントを学ぶ
4. 危機に出遭ったこどもの心理とケアについて理解する

準備学習(予習)

グループワーク課題を調べてくる

準備学習(復習)

他のグループの発表課題についてもまとめてみる

授業計画

1. 災害とは
2. 天災と人災
3. 災害時のこどものケア
4. 事故とこども
5. 事故防止
6. 疾病とこども
7. 虐待とこども
8. 虐待予防
9. 学校といじめ
10. いじめの分析
11. こどもの貧困
12. リスクマネジメント
13. リスクマネジメント・危機予知
14. こどものこころのケア
15. まとめと評価

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)課題発表:20% (2)レポート:60% (3)出席状況:20%

コミュニケーションの心理学

担当者：竹淵 香織

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

コミュニケーションを人間形成、社会的影響、適応改善等の視点から学習し、併せてコミュニケーションスキルを習得するためのグループワークを体験する。

「認定心理士」資格では、「選択科目h」（社会心理学・産業心理学）に区分される科目である。

2.学びの意義と目標

人間は、他者とのコミュニケーションの中で生きている。良好な人間関係や信頼関係の形成に有効なコミュニケーションについて、多角的に学ぶ。またコミュニケーションの技能を修得し、実践する手がかり学ぶ。

準備学習(予習)

授業計画を参照し、扱われるトピックスについて情報を集めておく

準備学習(復習)

各トピックスについてキーワード、概要をまとめておく

授業計画

1. ガイダンス
2. コミュニケーションとは何か
3. コミュニケーションの構成要素
4. 非言語的コミュニケーション
5. 非言語的コミュニケーション
6. 自己認識・対人関係とコミュニケーション
7. 自己認識・対人関係とコミュニケーション
8. アサーティブなコミュニケーション
9. コミュニケーションによる人間形成
10. 説得的コミュニケーション
11. マスコミュニケーション
12. マスコミュニケーション
13. 文化とコミュニケーション
14. 文化とコミュニケーション
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)平常点:60%:出席、小レポート、演習への参加度等
- (2)学期末試験:40%

児童心理学

担当者：山田 麻有美

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

こどもは、家庭・学校・職場などの集団の中で生きていく存在である。多様な社会文化的環境において、こども、特に児童は経験を積み重ね、独自の生き方を模索する。心身の成熟とともに個人差をもたらす、認知的・情動的・社会的な要因について学ぶ。

「認定心理士」資格では、「選択科目f」（教育心理学・発達心理学）に区分される科目である。

2.学びの意義と目標

児童期の発達段階においてどのような課題が存在するか、また、その課題の達成のために、児童がどのような能力や資源を有しているか学ぶ。

準備学習(予習)

毎回出される予習課題を行って、講義の臨むこと

準備学習(復習)

各回の授業の初めに、前回の確認を行うので、準備をしておくこと

授業計画

1. ガイダンス
2. 発達理論（エリクソンの発達理論）
3. 発達理論（ピアジェの発達理論）
4. 児童期の発達課題と児童期の発達過程総論
5. 知的発達概論
6. 児童の学習
7. 愛着と人間関係 児童にとっての愛着
8. 対人関係の発達概論
9. 児童のコミュニケーションの発達
10. 児童を取り巻く環境
11. 教師と児童の関係
12. 児童のメンタルヘルス
13. 学校における児童の支援
14. 社会における児童の支援
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)レポート:20% (2)試験:80%

障害児(者)心理学

担当者：石川 由美子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

障害の概念及び、障害がおよぼす心理的影響の理解。それぞれの障害の物語を通して、障害とともに生きる人の心理・行動特性の形成過程を理解し、その支援の方法を学習する。また、それぞれの障害の物語を通し、障害があるから単に支援が必要である存在という短絡的な理解ではなく、障害があるからこそ導かれる人格形成があるというスピリチュアルな気づきに繋げる。

「認定心理士」資格では、「選択科目g」（臨床心理学・人格心理学）に区分される科目である。

2.学びの意義と目標

本講義は、障害の概念および障害が及ぼす心理的影響を学んだ後、主要な障害を持つ事例の物語を通して、各障害の心理・行動特性を学ぶことができるように構成している。この学びによって障害とともに生きる人々に対しての心理的配慮を要する心理的ケアの基盤を学ぶことができる。

準備学習(予習)

そのつど触れる障害の定義等、調べてきてほしい。

準備学習(復習)

物語、心理特性、行動特性というキーワードをもとに、各講義内容を振り返ってほしい。

授業計画

1. 障害とは（障害と生きるかたちの視点（文化・社会、他者 自己）
2. 障害が及ぼす心理的影響
3. 視覚障害のAさんの物語
4. 視覚障害の心理特性・行動特性と支援
5. 聴覚障害のBさんの物語
6. 聴覚障害の心理特性・行動特性と支援
7. 肢体不自由のCさんの物語
8. 肢体不自由の心理特性・行動特性と支援
9. 病弱のDさんの物語
10. 病弱の心理特性・行動特性
11. 知的障害のEさんの物語
12. 知的障害の心理特性・行動特性とその支援
13. 発達障害のFさんの物語
14. 発達障害の心理特性・行動特性とその支援
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

【参考書】「障害児心理入門」（井澤信三・小島道夫生著/ミネルヴァ書房.）、「発達障害の臨床心理学」（東條吉邦・大六一志・丹野吉彦編著./東京大学出版会）

評価方法

- (1)講義内容の知識確認テスト:60%
- (2)授業内での発言と参加態度:20%
- (3)ミニレポート課題:20%

障害児教育総論

担当者：吉田 昌義, 岡澤 慎一, 金澤 貴之, 川間 健之介, 永井 伸幸, 米田 宏樹

開講期：春学期 必修・選択：選択科目/必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

特別支援教育・障害児教育の歴史的展開を概観するとともに、特別支援教育が目指すべき教育制度・実践について講義する。さらに、特別支援教育の現状について障害種別ごとに定義や診断、就学、教育の概要を理解し、全体像を把握する。

2.学びの意義と目標

1) 特別支援教育の目指すべき目標・理念について理解することができる。
2) 特別支援教育体制における学校経営、学級経営、指導の実際を知ることができる。
3) 特別支援教育に関する法律・制度等を理解することができる。
4) 特別支援教育の現状について、障害種別ごとに概要を理解し、述べることができる。
これらを通して、障害の概要及び特別支援教育全体を理解し、教育者にとって基盤となる知識ならびに価値観と、人格の育成を図る。

準備学習(予習)

テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

配布される資料を見直し、授業内容についての理解と考察を深めておくこと。

授業計画

1. 特別支援教育の歴史と理念 (担当：米田)
2. 特別支援教育制度の成果と限界 (担当：米田)
3. 特別な教育的ニーズとインクルーシブ教育の提起 (担当：米田)
4. 日本的インクルーシブ教育としての特別支援教育 (担当：吉田)
5. 特別支援教育コーディネーター、個別の教育支援計画、校内支援体制(保護者支援を含む) (担当：吉田)
6. 学校教育法、同施行規則、同施行令(学校教育制度、就学指導、学習指導要領等) (担当：吉田)
7. 障害児の教育の概要(特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常学級; 個別教育支援計画、個別指導計画) (担当：吉田)
8. 障害種別ごとの教育の概要(視覚障害) (担当：永井)
9. 障害種別ごとの教育の概要(聴覚障害) (担当：金澤)
10. 障害種別ごとの教育の概要(知的障害) (担当：吉田)
11. 障害種別ごとの教育の概要(肢体不自由) (担当：川間)
12. 障害種別ごとの教育の概要(病弱・身体虚弱) (担当：岡澤)
13. 障害種別ごとの教育の概要(重複障害) (担当：岡澤)
14. 障害種別ごとの教育の概要(発達障害) (担当：吉田)
15. 理解推進 (担当：吉田)

教科書

吉田 昌義, 鳥居 深雪 『特別支援教育基礎論(放送大学教材)』(放送大学教育振興会)

評価方法

(1)課題レポート:20% (2)講義内容の確認テスト:80%

小児保健学

担当者：齊藤 理砂子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目/必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義は、学童・思春期の子どもの健康問題に重点を置き、特徴的な感染症や慢性疾患を取り上げ、それらの病態生理や子どもの心理、支援について概説する。これらの学習を通じて、体調不良を訴えてくる子どもの支援や慢性疾患、障がいを持って学校に通学している子どもの支援について実践できる能力を養う。

2.学びの意義と目標

- 1.子どもの身体的機能を理解する。
- 2.学校感染症の特徴と支援について説明できる。
- 3.子どもの主なアレルギー疾患の特徴と支援について説明できる。
- 4.子どもの主な慢性疾患の病態と支援について説明できる。
- 5.子どもの眼疾患、耳鼻咽喉頭疾患の病態と支援について説明できる。

以上により、子ども期の健康の維持・増進に働きかけるための実践的な知識・技能を身につける。

準備学習(予習)

事前に指示される内容について調べておくこと。

準備学習(復習)

指示された内容について学習すること。

授業計画

- 1.子どもの身体の解剖生理 (筋骨格・目・耳・歯)(目標1)
- 2.子どもの身体の解剖生理 (内臓の生理機能)(目標1)
- 3.子どもの健康状態の把握(目標1)
- 4.学校感染症 (第1種-エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱等)(目標2)
- 5.学校感染症 (第2種-インフルエンザ 鳥インフルエンザを除く、百日咳等)
- 6.学校感染症 (第3種-コレラ、細菌性赤痢等)(目標2)
- 7.子どものアレルギー疾患 (気管支喘息、アトピー性皮膚炎)(目標3)
- 8.子どものアレルギー疾患 (食物アレルギー、アナフィラキシーショック)(目標3)
- 9.子どもの腎疾患 (糸球体腎炎・尿路感染症)(目標4)
- 10.子どもの腎疾患 (ネフローゼ症候群・尿検査)(目標4)
- 11.子どもの心疾患 (先天性心疾患)(目標4)
- 12.子どもの心疾患 (川崎病・不整脈と心電図)(目標4)
- 13.子どもの糖尿病と肥満(目標4)
- 14.子どもの眼疾患・耳鼻咽喉疾患(目標5)
- 15.小児保健学のまとめ(目標1~5)

教科書

衛藤 隆 『新世紀の小児保健』(日本小児医事出版社)

評価方法

(1)授業への参加及び筆記試験:60% (2)定期試験:40%

情報処理演習 A

担当者：渡辺 正人

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1. 内容

前半は初歩の統計学の理論とデータの提示の仕方について、また論文の書き方について学ぶ。また後半では、グループ演習の形式で、関心のある事項についてデータ収集・処理し、レポート化することとパワーポイントを用いたプレゼンテーションを行うことを課す。

「認定心理士」資格では、「基礎科目b」（心理学研究法）に区分される科目である。

2. 学びの意義と目標

心を数量化、情報化するという手続きを身につけるのに必要な知識、技術の基礎を身につける。また、心理学の論文において、数量化・情報化されたデータをどのように提示することが求められているかについても学習する。

準備学習(予習)

基本的操作は事前に確認しておくこと。

準備学習(復習)

授業で習うことだけでなく、何度も授業外で改訂を繰り返して、よりよい図化が可能なように習熟すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 情報処理概論 測定の妥当性と信頼性・尺度の種類
3. 情報処理概論 記述統計学
4. 情報処理概論 記述統計学
5. 情報処理理論 推定統計学
6. 情報処理理論 推定統計学
7. データの情報化 グラフとデータの関係
8. データの情報化 グラフの作成
9. 心理学論文の書き方
10. 心理学論文の書き方
11. 情報処理実習 (実際にグループで計画を立て、データを収集処理し、レポート化したうえで、プレゼンテーション)
12. 情報処理実習
13. 情報処理実習
14. 情報処理実習
15. 発表会とまとめ

教科書

授業の中で指示する

【参考書】授業内で指示する。

評価方法

(1)毎回、その時間の課題提出をし、その到達度などから総合的に評価: 100%

情報処理演習 B

担当者：渡辺 正人

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

理論の座学と並行して、教員が用意した仮想データや実際のデータをエクセルで処理することを重ねる。また、その結果については毎回レポートにまとめ、処理したデータを表現する能力を磨いていく。
「認定心理士」資格では、「基礎科目b」（心理学研究法）に区分される科目である。

2.学びの意義と目標

心理学に必要な基礎的な統計処理をコンピューターで行うことができるようになること。具体的には、記述統計データのグラフ化、基礎的な推定統計（t検定、ANOVA、二乗検定、ピアソンの積算相関係数）の理解、使用、表現を身につけることである。

準備学習(予習)

基本的な操作は事前に確認しておくこと

準備学習(復習)

授業で習うことだけでなく、何度も授業外で改訂を繰り返して、よりよい図化が可能なように習熟すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 情報処理演習Aの復習テスト 記述統計データグラフ化の実施
3. テスト解説 記述統計データのグラフ化の復習
4. 推定統計学概説
5. 推定統計学概説
6. 理論 t検定の理論と表現方法
7. 実習 エクセルを用いたt検定の実際
8. 理論 ANOVAの理論と表現方法
9. 実習 エクセルを用いたANOVAの実際
10. 理論 二乗検定の理論と表現方法
11. 実習 エクセルを用いた 二乗検定の実際
12. 理論 ピアソンの積算相関係数の理論と表現方法
13. 実習 エクセルを用いたピアソンの積算相関係数の実際
14. そのほか高度な統計手法とSPSS
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

【参考書】授業内で指示する。

評価方法

(1)毎回、その時間の課題提出をし、その到達度などから総合的に評価: 100%

心理学概論

担当者：山田 麻有美, 井上 知洋

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義では、初めて心理学を学ぶ人が、実証科学としての心理学を深く理解することを目的に、心理学の歴史、知覚とはなにか、学習と記憶のメカニズム、思考と推理の心理学的過程、人の行動と動機づけ・情動との関連、個人の多様性ないし個人差などの代表的な研究を紹介し、心理学の基礎的な考え方を講義していく。

「認定心理士」資格では、「基礎科目a」（心理学概論）に区分される科目である。

2.学びの意義と目標

心理学という学問の考え方や実証科学としての研究の方法などを学び、心理学の学びの基礎の形成を目指す。

準備学習(予習)

授業終了時に指示する課題に沿って行なうこととする。

準備学習(復習)

授業開始時に前回の授業内容の確認を行うので準備しておくこと。

授業計画

1. 講義の進め方
2. 心理学とは何か
3. 心理学の学問的背景と科学としての心理学の目標
4. 私たちの心に入ってくるものとは？ 私たちが見えている世界
5. 知覚の限界
6. 私たちの心にとどまるものとは？ 学習と学習
7. 心の中にあるものの使い方 思考と推論
8. 心の中にあるものの使い方 言語の使用
9. なぜ私たちはそうするのか 動機と情動
10. 発達
11. 個人差
12. 物事がうまくいかないと感じる時
13. 人と人のかかわり
14. 心理学の目的
15. まとめと理解度の確認

教科書

G.パトラー、F.マクナマス/山中康裕訳 『心理学 Psychology』(岩波書店)
Gillian Butler, Freeda McManus 『Psychology A Very Short Introduction』(Oxford University Press)

評価方法

- (1)出席状況による評価 (10%) :10%
- (2)参加度評価:30%:授業に出される質問への応答や課題に対する評価
- (3)理解度確認による評価:60%:最終回に行なう

心理学実験実習 A

担当者：山田 麻有美, 井上 知洋, 川村 良枝

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

心理学の基礎的な実験としてよく知られているものを取り上げる。知覚・認知・社会などの領域を中心に、実験・調査方法について、実験者（調査者）及び被験者（回答者）として参加体験する。実験器具の関係で、20名程度のグループに分かれて実習する。

「認定心理士」資格では、「基礎科目c」（心理学実験実習）に区分される科目である。

2.学びの意義と目標

心理学における実験的研究の基礎を習得する。そのため、心理学の基礎実験・実習を経験するとともに、得られたデータを分析・考察してレポートに毎回まとめることを通じて、実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。

準備学習(予習)

毎回配布する次週の実験資料をもとに準備学習を行ってください

準備学習(復習)

実験後の課題を行ってください

授業計画

1. ガイダンス
2. ガイダンス
3. レポートのまとめ方
4. レポートのまとめ方
5. ミューラーリヤー
6. ミューラーリヤー
7. 結果処理方法指導および図表の記述方法指導
8. 結果処理方法指導および図表の記述方法指導
9. 触二点域
10. 触二点域
11. 重量弁別
12. 重量弁別
13. 両側性転移
14. 両側性転移
15. 系列位置効果
16. 系列位置効果
17. ストループ効果
18. ストループ効果
19. 古典的条件付け
20. 古典的条件付け
21. ワーキングメモリ
22. ワーキングメモリ
23. 要求水準
24. 要求水準
25. 好悪の条件付け
26. 好悪の条件付け
27. 集団式知能検査（京大NX）
28. 集団式知能検査（京大NX）
29. まとめ
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

【参考書】授業の中で指示する。

評価方法

(1)出席状況:20% (2)レポート:80%

心理学実験実習 B

担当者：山田 麻有美, 村上 純子, 川村 良枝

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

心理学の基礎的な実験のうち、やや応用的なものを取り上げる。知覚・認知・社会などの領域を中心に、実験・観察・調査等の方法について、実験・実習の実験者および研究対象者として参加体験する。実験器具の関係で、20名程度のグループに分かれて実習する。

「認定心理士」資格では、「基礎科目c」（心理学実験実習）に区分される科目である。

2. 学びの意義と目標

心理学における実験的研究の基礎を習得する。そのため、心理学の基礎実験・実習を経験するとともに、得られたデータを分析・考察してレポートに毎回まとめることを通じて、実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。

準備学習(予習)

毎回配布する次週の実験資料をもとに準備学習を行ってください

準備学習(復習)

実験後の課題を行ってください

授業計画

1. ガイダンス
2. ガイダンス
3. 心的回転
4. 心的回転
5. 仮現運動
6. 仮現運動
7. 概念学習
8. 概念学習
9. ゲーム理論
10. ゲーム理論
11. パーソナルスペース
12. パーソナルスペース
13. 生理指標
14. 生理指標
15. 脳計測
16. 脳計測
17. 半構造化面接法（K-J法による質問構成）
18. 半構造化面接法（K-J法による質問構成）
19. 半構造化面接法（面接実施）
20. 半構造化面接法（面接実施）
21. ビデオによる児童観察（観察基準の構成）
22. ビデオによる児童観察（観察基準の構成）
23. ビデオによる児童観察（観察実施）
24. ビデオによる児童観察（観察実施）
25. グループによる自由実験計画
26. グループによる自由実験計画
27. グループによる自由実験実施
28. グループによる自由実験実施
29. まとめ
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

【参考書】授業の中で指示する。

評価方法

(1)出席状況:20% (2)レポート:80%

心理学実験を対象としたコンピュータ実習

担当者：渡辺 正人

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

実習を中心として、データの整理・分析を行う。
「認定心理士」資格では、「基礎科目b」（心理学研究法）に区別される科目である。

2.学びの意義と目標

心理学で行う実験で得られた各種のデータを、表計算ソフトを用いて集計し整理する方法を習得し、整理した実験の結果を表やグラフで表し、実験結果の考察に利用できる形で出力することができ、コンピューターを用いて心理学実験実習のレポートが作成する技術を身につけることが目的である。また、特に統計処理の際に、実際に直面しやすい困難として、統制の問題、標本数の問題などについても扱う。

準備学習(予習)

各授業で使用するデータの準備、作業の確認。

準備学習(復習)

授業内で理解できなかったところは必ず確認しておくこと

授業計画

1. ガイダンス
2. エクセルの使用基本
3. 理論 統制の問題と 二乗検定
4. 実習 統制の問題と 二乗検定
5. ディスカッション 統制の問題
6. 理論 標本数の少ない計画と累積度数図相関
7. 実習 標本数の少ない計画と累積度数図相関
8. ディスカッション 標本数の問題
9. 実習 仮想データを用いた、t検定
10. 実習 仮想データを用いたANOVA
11. 実習 仮想データを用いたピアソンの積算相関
12. 実習 仮想データを用いた因子分析
13. 実習 仮想データを用いた単回帰分析
14. 実習 仮想データを用いた重回帰分析
15. まとめ

教科書

深谷 澄男, 伊藤 尚枝, 喜田 安哲 『心理学データのエクセル統計』(北樹出版)

評価方法

(1)各実習での作業に関する習熟度:100%

スピリチュアルケア入門

担当者：窪寺 俊之, 伊能 忠嗣

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

今、スピリチュアルケアに対する看護、介護、医療、教育などの分野で関心が高まっています。高齢者、病人、学生へのケアの質が問われ、従来の身体的病気や障害の治療だけでは十分人々のいのちを守り、高めることができないからです。人間のたましいに触れるケアを通じていのちを守り、支え、励ますことが求められています。スピリチュアルケアは従来の身体的、心理的、社会的ケアに加えて、いのちの深みにふれるケアです。人が人としていきるために全存在を支えることで、人のいのちの質は高まっていきます。この授業はスピリチュアルケアとは何か、どのような歴史的背景をもっているか、実際にどのような形でなされるのかなどについて、入門段階から臨床現場でのケアを紹介します。

2. 学びの意義と目標

スピリチュアルケア入門は受講生にスピリチュアルケアとは何かを最初に理解してもらいます。スピリチュアルケアの入門的知識と理解をもって貰います。また、スピリチュアリティ、ケア、ケアギバーなどの専門用語を丁寧に説明し、受講生にスピリチュアルケアの本質、特徴、必要性、実践方法などを講義します。従来行なわれてきた心理カウンセリング、ソーシャルワークなどとの違いを明確にして、スピリチュアルケアの本質を明らかにします。また、ケアギバーが備えるべき資質、教育などについても触れます。この授業の学びは、受講生にスピリチュアルケアの意味をしっかりと理解してもらい、自分もケアに参加したいと願ってもらい、将来、スピリチュアルケアに参加する人を育てたいのが目標です。

準備学習(予習)

教科書を読んでくる。教科書の予習箇所は毎回の授業の時に指示する。

準備学習(復習)

自分の考えをまとめること、出来るだけ自分自身の考え方を尊重するように務める。

授業計画

1. スピリチュアルケアの必要性、現場からの必要性
2. スピリチュアルケアの内容、本質（臨床現場の視点）
3. スピリチュアルケアの制度（医療制度、病院内での役割）
4. スピリチュアルケアワーカーの資質
5. スピリチュアルケアワーカーの役割
6. スピリチュアルケアワーカーと患者の関係性
7. スピリチュアルケアワーカーの養成
8. スピリチュアルケアと「愛されていること」
9. スピリチュアルケアと「芸術」
10. スピリチュアルケアと「目に見えるもの」
11. スピリチュアルケアと「自分をゆるし、自分を愛すること」
12. スピリチュアルケアと「祈ること」
13. スピリチュアルケアと「楽しいこと」
14. スピリチュアルケアと「愛」
15. 最終回まとめ

教科書

窪寺 俊之 『スピリチュアルケア入門』（三輪書店）

評価方法

(1)授業出席:50% (2)提出物:30% (3)授業中の発言:20%
成績評価全体に対するコメント
授業参加が重要です。授業の現場で学ぶことが多いので、欠席しないように注意しましょう。

青年心理学

担当者：藤掛 明

開講期：春学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

(1) 青年期に起こりがちな心理的問題や、関連した社会病理現象をとりあげ、その理解や援助・解決の道筋を考える。
(2) 同時に青年期にある自分自身を洞察し、実際のアセスメント技法を体験しながら、体感的に学ぶことを心がける。
「認定心理士」資格では、「選択科目f」（教育心理学・発達心理学）に区分される科目である。

2.学びの意義と目標

時代とともに変化し、多様化してきている青年期の心理的課題について概要を知ることができる。また、青年期にある自分自身について深く知ることができる。

準備学習(予習)

授業計画や、授業内で行う次回予告を参考に、インターネット等で情報を集めたり、関連資料を読むなどしておくこと。

準備学習(復習)

配付資料を再読するとともに、授業で配布する復習用資料（授業新聞）を使って、授業の中心点を考え、他の学生の意見を読むなどすること。

授業計画

1. 青年期と青年心理学
2. 自分自身を考える（行動スタイル）
3. 自分自身を考える（いろいろな自分；SCT）
4. 自分自身を考える（深層の自分；描画テスト）
5. 自分自身を考える（自我同一性）
6. 自分自身を考える（自己実現）
7. 前半のまとめ
8. 家族を考える（きょうだい関係）
9. 家族を考える（家族の機能）
10. 友だち関係を考える
11. 学校を考える
12. 仕事を考える
13. 恋愛を考える
14. 昔の自分を考える（早期回想）
15. 全体のまとめ

教科書

プリントを配布する
毎回関連資料等を配布する。
【参考書】授業の中で指示する。

評価方法

- (1)ミニテスト:25%:適宜授業内で行なう
- (2)授業態度:25%
- (3)授業内テスト:50%:最終授業内で行なう

世界のこども

担当者：寺崎 恵子

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

こどもは、やがておとなになる。その過程には文化が関わっている。こどもの生活世界は、時代や住んでいるところによって様々である。それは、その国や地域の歴史や政治・経済、そして風土に影響されると同時に、それらに影響を及ぼしているからである。こどもとおとなの関わりあいのかたちに、こどもの生活世界を把握する。

2.学びの意義と目標

学びの意義は、こども理解の基本を文化の観点から理解することにある。多様な生活世界をありように「こどもであること」の共通点を見出すことに、こども理解の基本をとらえたい。

学びの目標は、こどもが育つ過程に触れる人として、自身のあり方を誠実にことばで表わして伝える力を養うことにある。

準備学習(予習)

配布資料をよく読んで、わからないところに印をつける。

準備学習(復習)

授業内容と小レポートの内容、そして配布資料をあわせて、充実したノートを作成する。

授業計画

1. こどもとおとな（問題提起）
2. こどもの生活世界
3. 家族のなかのこども（1） ... 生まれる
4. 家族のなかのこども（2） ... 大きくなる
5. 家族のなかのこども（3） ... 一人前になる
6. 家族のなかのこども（4） ... 家族のかたち
7. 学びのなかのこども（1） ... 知と技の習得
8. 学びのなかのこども（2） ... 文字を知る
9. 学びのなかのこども（3） ... 学校で学ぶ
10. 遊びのなかのこども（1） ... 役に立つ遊び
11. 遊びのなかのこども（2） ... ノンセンス
12. 遊びのなかのこども（3） ... オニに出会う
13. 遊びのなかのこども（4） ... 冒険する
14. こども理解とこども観
15. こどもとおとな（まとめ）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)小レポート:70%:5点×14回 (2)期末課題:20% (3)ノート:10%
期末課題のテーマを初回に提示して、取り組み方を説明する。

専門演習 (応用心理学)

担当者：井上 知洋

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

子どもの心理学に関する基礎的な理論についての理解を深めながら、それらが実際に応用されている分野（学習支援など）のあり方に、文献購読を通して触れていきます。各回につき担当者を決め、日本語文献の要約と発表、ならびにその内容についての討議を行います。

2.学びの意義と目標

心理学の知見がどのように蓄積され、どのように生かされているのかについて、文章を読み、まとめる中で学ぶことを目標とする。また、新たに疑問をもったり、自分なりに考えたりすることができるようになることを目標とする。

準備学習(予習)

担当の文献を読み、資料をまとめること。他の人の担当分についても、事前に読んでおくことが望ましい。

準備学習(復習)

毎回の発表を聞いてメモをとり、情報を整理しておくこと。

授業計画

1. イントロダクション
2. 文献の読み方，資料の作り方（1）
3. 文献の読み方，資料の作り方（2）
4. 文献購読（1）：要約・発表・討議
5. 文献購読（2）：要約・発表・討議
6. 文献購読（3）：要約・発表・討議
7. 文献購読（4）：要約・発表・討議
8. 文献購読（5）：要約・発表・討議
9. 中間まとめ
10. 文献購読（6）：要約・発表・討議
11. 文献購読（7）：要約・発表・討議
12. 文献購読（8）：要約・発表・討議
13. 文献購読（9）：要約・発表・討議
14. 文献購読（10）：要約・発表・討議
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)授業への参加:20%:質問など
- (2)発表:30%
- (3)課題レポート:50%:中間・期末

専門演習 (家族心理学)

担当者：村上 純子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

心理学、人間理解、家族に関する研究テーマの中で、自らの問題意識を高め、それに関するトピックスを調査、レポート作成、発表する。

2.学びの意義と目標

心理学および、人間理解、家族に関する基礎を学び、自らの関心事をあきらかにすること、研究方法の基礎を身につけることが目的である。卒業研究にむけての土台となる演習である。

準備学習(予習)

担当者は文献を読み、レジメを準備し発表に備えること。担当に関わらず全員文献を読むこと。

準備学習(復習)

授業内容を振り返り、自らの研究レポート作成に生かすこと。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.研究とは
- 3.文献の調べ方
- 4.研究レポートの書き方
- 5.文献講読とディスカッション(1)
- 6.文献講読とディスカッション(2)
- 7.文献講読とディスカッション(3)
- 8.文献講読とディスカッション(4)
- 9.研究レポート作成(1)
- 10.研究レポート作成(2)
- 11.レポート発表と討議(1)
- 12.レポート発表と討議(2)
- 13.レポート発表と討議(3)
- 14.レポート発表と討議(4)
- 15.まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席・授業態度:50% (2)研究レポート:50%

専門演習 (公衆衛生学・環境教育)

担当者：中村 馨男

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

課題を設定し、それについて調べ、レポートを作成し、プレゼンテーションをおこなう。

範囲は、公衆衛生学、環境衛生学、予防医学、環境保健および環境教育など、周辺領域を含めれば健康（保健）・医療・福祉・環境の分野に及ぶ。

レポート作成およびプレゼンテーションのために、パソコンも利用する。

2.学びの意義と目標

どのような職場や立場に置かれても、仕事や研究の目標を明確に文章化（レポート）し、さらに、結果を報告（レポート、プレゼンテーション）する作業は必要、不可欠である。具体的な学習・作業を通して、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法を習得する。

準備学習(予習)

毎回、予習課題を提示する。

準備学習(復習)

毎回、復習課題または宿題を提示する。

授業計画

1. 専門演習の進め方
2. 課題の決め方
3. 文献・資料の探し方と調べ方
4. レポートの書き方、まとめ方 1 .
5. レポートの書き方、まとめ方 2 .
6. プレゼンテーション（発表）のしかた 1 .
7. プレゼンテーション(発表)のしかた 2 .
8. 発表
9. 課題の設定（後半）
10. レサーチクエスションの設定
11. 文献・資料調査
12. 発表準備 1 .
13. 発表準備 2 .
14. 発表
15. 専門演習 . に向けて、今後の課題

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)学習態度:30%:課題への取り組み、積極性
- (2)レポート:40%
- (3)プレゼンテーション:30%

専門演習 (子どもの健康)

担当者：齊藤 理砂子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

現在は、少子化時代であり、子ども一人ひとりの存在がますます大切になってきています。しかし、子どもを取り巻く周囲では、様々な問題が起きています。本講義では、子どもが健やかに成長していくためには、どのような生活環境が望ましいのか、そしてどのようなことを大切にしていけばいいのかについて学習します。現代を生きる子どもたちの健康問題や課題、そして、それらの対処法、支援方法について、学生たちが主体となって、考察し、ディスカッションを行います。

2.学びの意義と目標

1. 現代を生きる子どもたちにとって、心身ともに健やかに成長していくためには、どのような生活環境が望ましいのかについて考え、理解を深める。
2. 「子どもの健康」という広いテーマから、興味がある課題を自ら見つけ出し、今後の学習、研究活動につなげていく。

準備学習(予習)

日常的に、子どもの諸問題に対する興味・関心を持つように努める。事前に指示した内容について学習する。

準備学習(復習)

指示された内容について学習する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 子どもの生活実態
3. 子どもの生活習慣
4. 子どもの体力・運動能力の現状
5. 子どもの身体的な課題
6. 子どもの社会的な課題
7. 子どもの心理的な課題
8. 子どもの遊び
9. 子どもとメディア
10. 子どもの食生活、食育
11. 子どもを取り巻く諸問題1 (グループ活動 テーマ設定)
12. 子どもを取り巻く諸問題2 (グループ活動 発表レジュメ作成)
13. 子どもを取り巻く諸問題3 (グループ活動 発表、プレゼンテーション準備)
14. 子どもを取り巻く諸問題4 (グループ活動 発表会)
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)学習態度:50% (2)グループ発表:50%

専門演習 (心理療法)

担当者：川村 良枝

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

こども心理学科専門科目の2年間のゼミの基礎段階にあたります。心理療法とは何か(カウンセリングとの違い、心理療法の歴史、現在心理療法がどのように行われているかなど)というテーマを軸に、文献にあたり、関心事について調べる方法を学んだりしていきます。

2.学びの意義と目標

心理療法とは何かのイメージをつかむことと、基本的な文献読解能力及び、資料収集能力をつけていくことが目標となります。これは、専門演習の基礎力となります。また、英語の文献に触れることに対する抵抗をなくしていくことも目標とします。

準備学習(予習)

授業計画を参照し、資料収集、プレゼンテーション等、必要な準備を行うこと。担当教員の助けが必要な場合は、必ず事前にアポイントメントをとること。

準備学習(復習)

ゼミノートを作り、授業での学びと疑問を毎回まとめること。

授業計画

1. ガイダンス
2. ビデオ鑑賞 グロリアと三人のセラピスト
3. 三人のセラピストについて調べたことを発表する 1
4. 三人のセラピストについて調べたことを発表する 2
5. 三人のセラピストについて文献で知る 1
6. 三人のセラピストについて文献で知る 2
7. 三人のセラピストについて文献で知る 3
8. 心理療法の歴史について資料を読む 1
9. 心理療法の歴史について資料を読む 2
10. 心理療法の歴史について資料を読む 3
11. 心理療法の歴史について分かったことを発表する 1
12. 心理療法の歴史について分かったことを発表する 2
13. カウンセリングとの違いについて話し合う
14. 現在の心理療法の適用について発表する
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業への参加度:70%:出席点を含む (2)ゼミノートの内容評価:30%

専門演習 (相談心理学)

担当者：竹淵 香織

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

相談、すなわちカウンセリングや広義の援助活動について習得した知見を基に、各自が自分の興味があるテーマを決定し、関連した文献を収集し、その内容をレポートする。
お互いの発表に意見を述べ、議論する。

2.学びの意義と目標

各自の興味ある研究分野を取り上げ、文献を収集し研究計画を立てることができるようになる。講師の個々への助言指導を基に、研究の進め方を学ぶ。

準備学習(予習)

関連情報、先行研究、文献を収集する

準備学習(復習)

議論で得られた点を元に、研究デザインを修正する

授業計画

1. ガイダンス
2. 研究分野の検討
3. 研究分野の検討
4. 文献収集と検討
5. 文献収集と検討
6. 文献収集と検討
7. 各自の研究発表
8. 各自の研究発表
9. 各自の研究発表
10. 研究テーマの検討
11. 研究テーマの検討
12. 各自の研究発表の再検討
13. 各自の研究発表の再検討
14. 各自の研究発表の再検討
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:30%:出席、討論への参加度 (2)発表:30% (3)レポート:40%

専門演習 (適応の心理)

担当者：山田 麻有美

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

悩みや心の問題が生じる要因やメカニズムは多様で複雑であり、その理解は容易ではない。本演習では、心理学の基本的な考え方について、文献を通して学び、簡単な心理学的実験や実習を通して理解を深め、個々人の興味関心が問題意識に発展するようにしていく。

2.学びの意義と目標

心理学的あるいは科学的なものの考え方を身につけ、その科学的態度で各自が問題意識を明確にしていくことを目標としている。

準備学習(予習)

毎回の取組み予定の文献を読み、用語の意味を調べ、内容を整理しておく

準備学習(復習)

各回の解説・討論の内容を整理し、用語や内容の理解を深めるようにする

授業計画

1. 演習の進め方
2. 子どもの発達に関する基本的文献の講読(1)
3. 子どもの発達に関する基本的文献の講読(2)
4. 子どもの発達に関する基本的文献の講読(3)
5. 子どもの発達に関する基本的文献の講読(4)
6. 子どもの発達に関する基本的文献の講読(5)
7. 身体のしくみと適応に関する基本的文献の講読(1)
8. 身体のしくみと適応に関する基本的文献の講読(2)
9. 身体のしくみと適応に関する基本的文献の講読(3)
10. 身体のしくみと適応に関する基本的文献の講読(4)
11. 身体のしくみと適応に関する基本的文献の講読(5)
12. 環境と適応に関する基本的文献の講読(1)
13. 環境と適応に関する基本的文献の講読(2)
14. 環境と適応に関する基本的文献の講読(3)
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)レポート:40% (2)発表状況:40% (3)参加度:10% (4)出席状況:10%

専門演習 (日本文化学)

担当者：渡辺 正人

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

文化から読み解く心意や心理を取り扱う。この専門演習では柳田國男の『遠野物語』を読み解きながら、テキストにあらわれた心意と人間の関係についてを考える。特にテキストにあらわされたものは、身体性が無いので、それらの身体的な「場」を復元しながら読んでみたい。

2.学びの意義と目標

専門演習なので、まずは発表とは何かを学び、資料の作成法や発表について身につけることを目標とする。

準備学習(予習)

テキストを事前に熟読しておくこと。

準備学習(復習)

発表をもとに、さらにテキストを読み込んでおく。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 遠野物語とはなにか
3. テキストから心意・心理を読み解く練習 1
4. テキストから心意・心理を読み解く練習 2
5. 発表
6. 発表
7. 発表
8. 発表
9. 発表
10. 発表
11. 発表
12. 発表
13. 発表
14. 発表
15. まとめ

教科書

柳田 国男 『遠野物語 (集英社文庫)』 (集英社)

評価方法

(1)発表:50% (2)資料:50%

専門演習 (発達心理学)

担当者：金谷 京子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

こどもの発達の基礎知識について文献で学ぶと共に実際の観察やこどもとのふれあいを通してこどものための発達支援について考えていく。

2.学びの意義と目標

時間軸でこどもの変化を見る目をもつとともに、こどもにとっての環境の変化について考えられるようにしていく。
発達に応じたこどもの接し方を学ぶ。

準備学習(予習)

自己課題が設定できるように、多数の文献を検索しておく。

準備学習(復習)

他のゼミ生の発表を聞いて、自己課題を整理しなおす。

授業計画

1. ガイダンス
2. 発達心理学関連文献購読
3. 文献購読
4. 文献購読
5. 文献購読
6. 自己課題の設定
7. 検索、発表のルールについて
8. 文献調査結果の発表
9. 文献調査結果の発表
10. 文献調査結果の発表
11. 自己課題の修正
12. 文献調査結果の発表
13. 文献調査結果の発表
14. 文献調査結果の発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)レポート:70% (2)発表:30%

専門演習 (ボランティアとこどものケア)

担当者：佐野 正子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

こどもについての理解を深める学びをし、こどもを取り巻く環境に目を向け、震災等の人生の危機にであったこどもの心のケアについて学ぶ。

2.学びの意義と目標

こどもについて理解を深め、こどもとの関わり方やこどもの心のケアの仕方を修得することを目標とする。また演習を通して、こどもに関する課題について自ら調べ考える基本的な手法を身につける。

さらにボランティアを実践することにより、実際にこどもたちと触れ合い、こどもたちの心とつながることによって、他者と関わること・他者のために生きることの喜びを経験する。最後にこの学びと経験をレポートにまとめ、互いに分かち合う。

準備学習(予習)

こどもに関する課題に取り組み、自主的な調査・研究と発表準備をおこなう。

準備学習(復習)

取り組んだ課題について、さらに理解を深め、レポートにまとめる。

授業計画

- 1.オリエンテーション(授業の進め方、目標)
- 2.図書館の文献の探し方
- 3.こどもの成長(1)
- 4.こどもの成長(2)
- 5.こどもの遊び(1)
- 6.こどもの遊び(2)
- 7.こどものおもちゃ(1)
- 8.こどものおもちゃ(2)
- 9.絵本の読み聞かせ(1)
- 10.絵本の読み聞かせ(2)
- 11.こどもを取り巻く環境
- 12.こどもと震災
- 13.こどもの心のケア(1)
- 14.こどもの心のケア(2)
- 15.まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席レポート:60% (2)課題レポート:40%

専門演習 (臨床発達心理学)

担当者：石川 由美子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

臨床発達心理学の領域において扱われている現代的課題について輪読してみる。その過程を通して、学生さん自身が興味を持った事柄を自分自身で調べ、まとめ、発表してみる。
以上のことを実際に体験しながら、臨床発達心理学領域の今日的課題に対する知識を深める。

2.学びの意義と目標

臨床発達心理学領域の図書を輪読することで、その領域の現代的課題に関する知識を身につける。また、現代的課題について、学生自身の調べる、まとめる、発表する行為を通して、自身の学問に対する動機を発見することができる。

準備学習(予習)

予習には力点を置かない

準備学習(復習)

各授業で関心を持った事柄を、調べる、まとめる、そして発表する練習に力を入れてほしい。

授業計画

1. 図書館に行ってみる
2. 図書館に行ってみる、文献の検索方法を知る
3. 臨床発達心理学に関する本を輪読する。
4. 臨床発達心理学に関する本を輪読する。
5. 臨床発達心理学に関する本を輪読する。
6. 各自が関心を持ったキーワードについて発表する。
7. 各自のキーワードをもとに文献を調べ・文献を読み・まとめる
8. 各自のキーワードをもとに文献を調べ・文献を読み・まとめる
9. まとめた結果を発表する。
10. まとめた結果を発表する。
11. 各自が調べた文献からさらに関心を持った事柄を調べ・まとめる。
12. 各自が調べた文献からさらに関心を持った事柄を調べ・まとめる。
13. 発表する。
14. 発表する。
15. まとめとプレゼンテーションの技法について知ろう。

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業への参加度:60% (2)発表:40%

専門演習 (倫理学)

担当者：原 一子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

2013年度は、倫理学の草創期、ギリシアの明るい知性に触れる。ソクラテスの弟子プラトンの『ソクラテスの弁明』を通して法と正義の問題を考え、『饗宴』からはギリシアの愛の思想を学び、真の教育とは何かを考える。テキストの精読によって内容を正しく理解するとともに、資料検索、レジュメ作成の仕方、発表の仕方、質疑応答の仕方などを学ぶ。毎週、担当者に分担箇所についての発表をして貰い、履修者全員が討論をして、内容の一層深い解釈を試みる。

2.学びの意義と目標

「倫理学」を学ぶ者にとっては、その基本文献を精読し思想を正しく理解することはぜひとも必要なことである。先哲から生き方や考え方を学び価値観を確立することができれば、それは一生の財産となることであろう。深く考え、それを表現する力を培うことは、人生をより善く生きる上にも、就職にも益すこと大の筈である

準備学習(予習)

毎週、自宅でテキストを読み、必要な資料の検索をしたり、関連の書籍を読んだりして思索を深め、それをレジュメにまとめて授業に臨む。

準備学習(復習)

毎回の授業で進んだテキストの箇所について要約・コメントをして提出する。

授業計画

- 1.はじめに 演習の進め方
- 2.ソクラテスの生涯と思想
- 3.プラトンの生涯と思想
- 4.ソクラテスとプラトン
- 5.『ソクラテスの弁明』講読 1
- 6.『ソクラテスの弁明』講読 2
- 7.『ソクラテスの弁明』講読 3
- 8.『ソクラテスの弁明』講読 4
- 9.『ソクラテスの弁明』講読 5
- 10.『饗宴』講読 1
- 11.『饗宴』講読 2
- 12.『饗宴』講読 3
- 13.『饗宴』講読 4
- 14.『饗宴』講読 5
- 15.総括

教科書

プラトン,山本光雄『ソクラテスの弁明 エウチュプロン,クリトン(角川文庫)』(角川書店)
プラトン,久保勉『饗宴(岩波文庫)』(岩波書店)

評価方法

(1)課題およびレポート:50% (2)出席:30% (3)受講態度:20%

知的障害児の生理・病理

担当者：勝二 博亮, 舟橋 敬一

開講期：秋学期集中 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

本授業では、まず知的障害の定義および類型と、定義に関連する病態生理学的所見について、ライフサイクル別に講述する。また脳機能の発達に関する講義を通して知的障害の病態生理特性について理解を深める。さらに知的障害に関連する発達障害、てんかんに代表される合併疾患についても触れる。その後、それぞれの特徴から教育的支援を進める際に配慮すべき点や支援の対象とすべき点などについて講義する。

2. 学びの意義と目標

1) 知的障害について、病態生理学的側面をライフサイクルの観点から理解できる。
2) 知的障害に関連する発達障害、合併疾患等について病態生理学的側面から理解できる。
3) 医学的側面の理解にとどまらず、実際の教育的支援に生かすための病態生理学的特性を理解することができる。
これらを通して、本学が期待する特別支援教育に携わる教育者に必要な個体発生から青年期に至る子ども期の障害の生理・病理的な知識を得ることで、実際のケアや教育的支援ができる教員の育成を図る。

準備学習(予習)

各回のキーワードについて参考書などで調べておくことが望ましい。

準備学習(復習)

基礎的な概念や専門用語が多く出てくるため、事典をあたるなどしてそれらを覚えるように努力すること。

授業計画

1. オリエンテーション (担当：舟橋)
2. 知的障害の定義 (担当：舟橋)
3. 知的障害の類型 (担当：舟橋)
4. ライフサイクルと障害 (担当：舟橋)
5. 知的障害の病態生理 (1) 出生前の障害 (担当：舟橋)
6. 知的障害の病態生理 (2) 胎生期の障害 (担当：舟橋)
7. 知的障害の病態生理 (3) 周生期の障害 (担当：舟橋)
8. 知的障害の病態生理 (4) 出生後の障害 (担当：舟橋)
9. 脳機能の発達 (1) 胎生期から幼児期 (担当：勝二)
10. 脳機能の発達 (2) 児童期から青年期 (担当：勝二)
11. てんかんの病態生理 (担当：勝二)
12. 発達障害の病態生理 (1) 自閉症スペクトラム障害 (担当：勝二)
13. 発達障害の病態生理 (2) 学習障害・注意欠陥多動性障害 (担当：勝二)
14. 知的障害・発達障害への教育的支援 (担当：勝二)
15. まとめ (担当：勝二)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 講義内容に関するテスト:60% (2) レポート:40%

適応の心理

担当者：竹淵 香織

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

各臨床分野での事例を取り上げ紹介する。また、それぞれのトピックスについてグループでのディスカッションを行う。

「認定心理士」資格では、「選択科目g」（臨床心理学・人格心理学）に区分される科目である。

2.学びの意義と目標

メンタルヘルスのひとつの大きな指標として「適応」「不適応」を学ぶ。「適応」の状態を理解するとともに、諸領域における「不適応」の状態を臨床心理学的に明らかにする。

準備学習(予習)

授業計画を参照し、扱われるトピックスについて新聞等で情報を集めておく

準備学習(復習)

学んだトピックスに関してキーワード、概要をまとめておく

授業計画

1. ガイダンス
2. 「適応」「不適応」とは
3. 適応障害とは
4. 学校不適応
5. 学校不適応
6. 学習不適応
7. 学習不適応
8. 職場不適応
9. 職場不適応
10. 結婚不適応
11. 中年期の不適応
12. 老年期の不適応
13. 非行の心理臨床、アルコールと薬物依存・乱用
14. 自殺問題
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:60%:出席、参加度 (2)学期末試験:40%

日本教育史

担当者：石津 靖大

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

学校と教育の歴史について、ヨーロッパの古典思想から近代の教育思想までを概観し、近代の学校、とくに義務教育の成り立ちについての理解を深める。ついで、日本における教育思想と学校制度について概観する。教育のありようは、それぞれの地域の政治・経済・文化など社会的環境に深く根ざしている。講義では、教育の思想や制度、学校教育について、それぞれの社会的背景を視野に入れ、教育について多様な観点からその有りようを考えていく能力を養う。

2.学びの意義と目標

1) ギリシャ・ローマの思想と教育及びキリスト教成立の意義とその後の影響を理解できる。
2) 西洋近代の学校教育の歴史及びルソーなどの近代教育思想について理解する。
3) 日本の教育史の流れを理解し、近代日本の学校教育の成り立ちを理解する。
4) 我が国の教育の諸課題について、思想的及び制度的な観点から考えを深められる。
5) 現代の教育思想と教育制度について理解できる。
学校と教育の歴史における基本的事項の理解が得られることを目指す。そして、それらの事項の整理をすることによって、世界と日本の教育の流れと現代の課題を知ることを目指す。

準備学習(予習)

授業計画を参照し扱われる内容の章節について、教職教養の教育図書や教育新聞等によって知識を得ておく。

準備学習(復習)

授業での教材を再読し基本的で重要な用語・人名について、教職教養用の教育用語集等によって確認しノート整理する。

授業計画

1. 古典時代と教育（ギリシャ・ローマの哲学と教育）
2. 中世ヨーロッパの思想と教育（大学教育の始まりとルネッサンスの思想）
3. 啓蒙思想と教育（ルソーとペスタロッチを中心に）
4. 近代の学校教育（義務教育制度の成立を中心に）
5. 新しい教育思想と学校教育（デューイを中心に）
6. 日本近世社会と教育（藩校と寺子屋教育）
7. 近世後期の教育（幕末の蘭学・国学を中心に）
8. 明治期の西欧教育制度と思想の需要
9. 明治公教育の完成と教育勅語体制
10. 新しい教育運動（大正期の学校教育）
11. 戦時下の学校教育（国家主義の台頭から学校教育の崩壊まで）
12. 戦後の教育改革（アメリカ教育使節団報告と学校教育改革）
13. 高度経済成長と学校教育（四六答申などを中心に）
14. 現代学校教育の課題（新しい学力観を中心に）
15. これからの学校と教育（学習指導要領などを中心に）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業への参加状況:30% (2)提出課題:30% (3)定期試験:40%

日本文化学

担当者：渡辺 正人

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

日本の文化の歴史と、その特性を中心に日本の文化を学ぶ。具体的には、民俗・芸術・宗教などを取り上げながら、その成立と特性を学び、それらが「日本人の心性」の形成にどのように関与してきたかを考える予定である。

2.学びの意義と目標

文化は、こころのゆりかごである。文化が違えば、ものの見方や感じ方は異なる。この授業では、日本文化の特性や感性について学ぶ。基本的な日本文化の特徴と心性の関係を理解することが目標である。

準備学習(予習)

Moodleに用語確認の小テストを載せておくので、それによって用語の確認を行うこと。

準備学習(復習)

Moodleに授業のまとめの小テストや記入シートを載せておくので、それによって授業のまとめを行うこと。

授業計画

1. 日本文化の成り立ち（歴史編）1
2. 日本文化の成り立ち（歴史編）2
3. 日本文化の成り立ち（歴史編）3
4. 日本文化の成り立ち（歴史編）4
5. 日本文化の成り立ち（民俗編）1
6. 日本文化の成り立ち（民俗編）2
7. 日本文化の成り立ち（民俗編）3
8. 日本文化の成り立ち（民俗編）4
9. 日本文化の成り立ち（宗教編）1
10. 日本文化の成り立ち（宗教編）2
11. 日本文化の成り立ち（宗教編）3
12. 日本文化の成り立ち（宗教編）4
13. 日本文化の心意性 1
14. 日本文化の心意性 2
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)小テスト:30% (2)授業シート:30% (3)まとめレポート:40%

人間行動学実験実習

担当者：石川 由美子, 井上 知洋

開講期：春学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

子どものころや行動に関する心理学的な研究の方法について学ぶことを目標とする。本実習では、特に行動観察法、発話分析法、知能検査法、発達検査法を扱う。各回の始めにそれぞれの基本的な方法について講義を通して学び、その後実習を通してそれらの技法を習得する。

「認定心理士」資格では、「基礎科目c」（心理学実験・実習）に区分される科目である。

2.学びの意義と目標

心理学研究の技法を学ぶことに加えて、教育や保育の現場で実際に子どもとかかわり合い、行動を観察し、その意味を考え理解するのに役立つ視点を養うことができる。

準備学習(予習)

各実習の事前に内容や用語等について調べておくことが望ましい。

準備学習(復習)

各実習の事後にレポートをまとめて提出すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 心理学とその方法
3. 心理学とその方法
4. 実験実習の心構え
5. 実験実習の心構え
6. 研究レポートのまとめ方
7. 研究レポートのまとめ方
8. 行動観察法（時間見本法） 講義と実習
9. 行動観察法（時間見本法） 講義と実習
10. 行動観察法（時間見本法） 実習のまとめとレポートの書き方
11. 行動観察法（時間見本法） 実習のまとめとレポートの書き方
12. 行動観察法（時間見本法） データの収集とグラフ化
13. 行動観察法（時間見本法） 一事例の実験デザイン
14. 発話分析法 講義と実習
15. 発話分析法 講義と実習
16. 発話分析法 実習のまとめとレポートの書き方
17. 発話分析法 実習のまとめとレポートの書き方
18. 知能検査法（DAMグッドイナフ人物画知能検査） 講義と実習
19. 知能検査法（DAMグッドイナフ人物画知能検査） 講義と実習
20. 知能検査法（DAMグッドイナフ人物画知能検査） 解釈とレポートの書き方
21. 知能検査法（DAMグッドイナフ人物画知能検査） 解釈とレポートの書き方
22. 発達検査法（KIDS乳幼児発達スケール） 講義と実習
23. 発達検査法（KIDS乳幼児発達スケール） 講義と実習
24. 発達検査法（KIDS乳幼児発達スケール） 解釈とレポートの書き方
25. 発達検査法（KIDS乳幼児発達スケール） 解釈とレポートの書き方
26. 発達検査法（遠城寺式乳幼児分析的発達検査） 講義と実習
27. 発達検査法（遠城寺式乳幼児分析的発達検査） 講義と実習
28. 発達検査法（遠城寺式乳幼児分析的発達検査） 解釈とレポートの書き方
29. 発達検査法（遠城寺式乳幼児分析的発達検査） 解釈とレポートの書き方
30. 総括

教科書

プリントを配布する
【参考書】授業の中で指示する。

評価方法

- (1)授業への参加の程度:60%:出席、実習、発表等
- (2)毎回の課題レポート:40%

発達心理学概論

担当者：金谷 京子

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

人間の行動や心的な諸機能の発達、どのような過程をたどるものか、また、どのようなメカニズムによってもたらされるのか、生涯発達の視点から人間の発達について学習する。また、発達の諸相と原理を理解した上で、心理職としてできる発達支援についても考えていく。

「認定心理士」資格では、「基礎科目a」（心理学概論）に区分される科目である。

2.学びの意義と目標

生涯発達の観点から、人間の誕生から死に至るまで変化の諸相を理解し、発達支援の実践にむすびつけるにはいかにしたらよいか考察していけるようにする。発達のメカニズムを考えながら、発達の課題について理解していく。

準備学習(予習)

単元ごとに教科書、参考書を読んでくること。子どもの観察を心がけ、子どもの成長・発達に関心をもつこと。

【参考書】「図解雑学 発達心理学」（山下富美代編著/ナツメ社）、
「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学」（岡本依子ほか/新曜社）

準備学習(復習)

講義ノートを整理し、復習しておくこと。

授業計画

1. 発達理論から学ぶ発達心理学の視点
2. 発達の諸相を学ぶ 生命の誕生
3. 発達の諸相を学ぶ 胎児期の発達
4. 発達の諸相を学ぶ 乳児期の発達
5. 発達の諸相を学ぶ 幼児期の発達
6. 発達と遊び
7. 発達の諸相を学ぶ 児童期の発達
8. 発達の諸相を学ぶ 青年期の発達
9. 発達の諸相を学ぶ 成人・老年期の発達
10. 発達のメカニズムを学ぶ 運動・操作の発達
11. 発達のメカニズムを学ぶ 認知・言語の発達
12. 発達のメカニズムを学ぶ 情動・社会性の発達
13. 発達支援の原理
14. 発達支援の方法
15. 発達心理学と保育・教育・福祉

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)レポート:20% (2)試験:80%

福祉学概論

担当者：牛津 信忠

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

- ・現代社会における福祉制度の意義や理念、さらに歴史を理解する。
 - ・現代社会における福祉状況について理解する。
 - ・福祉原理の理論と思想について理解する。
 - ・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。
 - ・福祉政策の課題について理解する。
- (講義の進め方・順番は理解度の状況に応じて変更されることがある)

2.学びの意義と目標

現代社会における福祉とは、単に狭義の弱者救済ではなく、人間生活を総合的に問題状況から解放する施策と技術の中核とした支援的充足・調整策である。その制度状況へ道を歴史的、思想的に理解し、福祉学への導入をしていきたい。加えて技術論についての基本視点をも概説したい。

準備学習(予習)

授業の初めに指示する参考文献、福祉小六法の関連箇所を、事前に読み、授業に臨むこと。
授業時に配布するレジユメの内、語られず残された箇所について次回までに理解を深め、問題意識を持って授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業のレジユメと参考文献等を照合させ、毎回、必ず復習すること。3回に一度、授業終了10分前に実施する小テストをその間の授業の復習に役立てること。

授業計画

- 1.福祉制度の現在(1)
- 2.福祉の歴史(1)
- 3.福祉の歴史(2)
- 4.福祉の歴史(3)
- 5.福祉政策への道
- 6.福祉政策への展開(1)
- 7.福祉政策への道(2)
- 8.福祉思想(1)
- 9.福祉思想(2)
- 10.福祉の原理
- 11.福祉のニーズ論(1)
- 12.福祉のニーズ論(2)
- 13.福祉資源(1)
- 14.福祉資源(2)
- 15.福祉政策の課題

教科書

プリントを配布する
毎回授業概要のプリントを配る。これに講義において重要とされた内容を書き込んだり、またマーカーチェックをしたりして拡大・深化した福祉理解へ進んでほしい。

評価方法

(1)出席:20% (2)小テスト:20% (3)学期末テスト:60%

プレイセラピー入門

担当者：村上 純子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

プレイセラピーとは、子どもにとっての遊びの意味、心理療法としての理論など、基礎的なことを学ぶ。

2.学びの意義と目標

プレイセラピーの実際として、子どもとの関わり方の基本的な態度、具体的な方法論などを知り、子どもをより深く理解し、関わることができるようになることを目標とする。

準備学習(予習)

各回、文献の指定された箇所を読んでくること

準備学習(復習)

配布されたプリントをよく読み、書かれている内容を説明できるようにすること

授業計画

1. 子どもと心理臨床
2. プレイセラピーの歴史と発展
3. 子どもの発達と遊び(1)
4. 子どもの発達と遊び(2)
5. プレイセラピーとアセスメント
6. プレイセラピーにおける制限設定
7. 子どもと家族
8. プレイセラピーの諸問題
9. プレイセラピーの実際(1)
10. プレイセラピーの実際(2)
11. プレイセラピーの実際(3)
12. プレイセラピーの実際(4)
13. プレイセラピーの実際(5)
14. プレイセラピーの終結
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席・授業態度:30% (2)課題:20% (3)学期末試験:50%

触れるアート

担当者：喜田 敬

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

(1) 内容 人の感覚器官の中で触覚は視覚や聴覚に比べ日ごろ取り上げられることが少ない。しかし、こどもが生まれてすぐに利用する感覚器官は、口の周りの触覚である。そしてその後も、気温や湿度など多くの情報を触れることを通して取り入れている。近年この触れることを媒介とした芸術や身体で感じることをアートと捉える動きがある。本講義では、紹介し解説する芸術作品についての知識を得るだけでなく、様々な素材に実際に触れることを通して、より深く理解することができるようにしていく。また、感触を味わい楽しむ芸術や絵本などに触れる機会を提供していきたい。

(2) カリキュラム上の位置づけ こども心理学の専門科目であり、1年次から履修することのできる選択科目である。

(3) 学びの意義と目標 人は触覚を通して様々な情報を得ており、心理学の重要な研究分野の一つである。またアートが人の感情や情緒に及ぼす影響も大きい。この人の心と密接な関係にある触覚な芸術作品に触れ、理解することは、心理学を学ぶ上で重要な意義を持つ。

2.学びの意義と目標

ものに触れる感覚を通し、新しいじぶんを発見し、また新しい世界を発見する。

準備学習(予習)

前の週に配布したプリントを読んでおくこと

準備学習(復習)

授業内容を記録、整理する。

授業計画

1. 五感について
2. 触覚
3. 秋岡芳夫の世界
4. 大工道具
5. 張子作り(1)
6. 張子作り(2)
7. 張子作り(3)
8. 粘土
9. 紙粘土
10. 小麦粉粘土
11. スライム
12. 積木の研究
13. 木製パズル作り(1)
14. 木製パズル作り(2)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席・作品:80% (2)レポート:20%

ヘルス・プロモーション

担当者：齊藤 理砂子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容

ヘルスプロモーションは現代社会において、自他ともに健康を保持増進していく上で重要な役割を担う。健康の保持増進を図る上での政策、組織的取り組みや地域での活動、個々の適切な生活行動を選択するための健康教育など、ヘルスプロモーションの基本的な理念と方法を学ぶ。

2.学びの意義と目標

ヘルスプロモーションの基本的な概念や理論について説明できる。また、わが国の健康課題を理解し、地域や学校におけるヘルスプロモーションの具体的な活動について知り、実践につなげることができる。

準備学習(予習)

事前に指示される内容について調べておくこと。

準備学習(復習)

指示された内容について学習すること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.現代社会と健康（健康の概念）
- 3.健康社会と健康（健康課題）
- 4.ヘルスプロモーションの概念
- 5.ヘルスプロモーションの方法
- 6.日本におけるヘルスプロモーション
- 7.地域におけるヘルスプロモーション1
- 8.地域におけるヘルスプロモーション2
- 9.学校教育におけるヘルスプロモーション1
- 10.学校教育におけるヘルスプロモーション2
- 11.ヘルス プロモーション スクール
- 12.世界におけるヘルスプロモーション
- 13.子どもの健康を考える（グループ活動）
- 14.子どもの健康を考える（発表）
- 15.まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:50% (2)授業後の振り返りシート及び課題レポート:50%

ヘルス・プロモーション

担当者：齊藤 理砂子

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容

ヘルスプロモーションは現代社会において、自他ともに健康を保持増進していく上で重要な役割を担う。健康の保持増進を図る上での政策、組織的取り組みや地域での活動、個々の適切な生活行動を選択するための健康教育など、ヘルスプロモーションの基本的な理念と方法を学ぶ。

2.学びの意義と目標

ヘルスプロモーションの基本的な概念や理論について説明できる。また、わが国の健康課題を理解し、地域や学校におけるヘルスプロモーションの具体的な活動について知り、実践につなげることができる。

準備学習(予習)

事前に指示される内容について調べておくこと。

準備学習(復習)

指示された内容について学習すること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.現代社会と健康（健康の概念）
- 3.健康社会と健康（健康課題）
- 4.ヘルスプロモーションの概念
- 5.ヘルスプロモーションの方法
- 6.日本におけるヘルスプロモーション
- 7.地域におけるヘルスプロモーション1
- 8.地域におけるヘルスプロモーション2
- 9.学校教育におけるヘルスプロモーション1
- 10.学校教育におけるヘルスプロモーション2
- 11.ヘルス プロモーション スクール
- 12.世界におけるヘルスプロモーション
- 13.子どもの健康を考える（グループ活動）
- 14.子どもの健康を考える（発表）
- 15.まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:50% (2)授業後の振り返りシート及び課題レポート:50%

保健学総論

担当者：石川 由美子, 齊藤 理砂子

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

心身の機能の発達と心の健康との連関について、心身の発達、欲求とストレスの関係の講義から紐とく。その基盤をもとに現代的健康問題について理解を深め、学校という場で過ごす児童・生徒の健康問題についても触れる。最後に、現代的健康問題を題材に、健康を守り（予防を含み）、維持していくための対処方法について討議する。

2. 学びの意義と目標

1. 心身の機能の発達と心の健康の連関が理解できる。
2. 現代的健康問題について理解できる。
3. 現代的健康問題への対処と健康維持・増進について考えることができる。

準備学習(予習)

事前に指示される内容について調べておくこと。

準備学習(復習)

指示された内容について学習すること。

授業計画

1. オリエンテーション、健康を保つということ(目標1)(齊藤)
2. 育ちと発達(発達の大原則、発達の個人差)(目標1)(石川 齊藤)
3. 身体機能の発達：身体器官の発達(目標1)(石川 齊藤)
4. 運動機能の発達(目標1)(石川)
5. 精神機能の発達1：認知機能、情動機能、社会性の発達(目標1)(石川)
6. 精神機能の発達2：自己認識の発達過程、ことばの発達(目標1)(石川)
7. 精神機能の発達3：思春期の身体変化、身体変化がもたらす精神的影響(目標1)(石川)
8. 欲求とストレス1：生理的、心理的、社会的欲求について(目標1)(齊藤)
9. 欲求とストレス1：生理的、心理的、社会的欲求について(目標1)(齊藤)
10. 現代的健康問題1：生活習慣と健康(衣・食・住、喫煙、飲酒、薬物、睡眠と休養)(目標2)(齊藤)
11. 現代的健康問題2：生活習慣病について(肥満、糖尿病、高血圧等)(目標2)(齊藤)
12. 現代的健康問題3：学校環境と感染症、学校環境と小児性うつ病(目標2)(齊藤)
13. 保健(健康維持と健康増進)の取り組み：現代的問題への対処(生活習慣、生活習慣病)についてグループ討議(目標2、3)齊藤
14. 保健(健康維持と健康増進)の取り組み：学校環境と感染症、学校環境と小児性うつ病)についてグループ討議(目標2、3)齊藤
15. グループ討議発表とまとめ(目標1、2、3)(齊藤)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)テスト:70% (2)まとめのレポート:30%

ボランティア実践論

担当者：渡辺 正人, 佐野 正子, 助川 征雄

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

ボランティア実践論では、ボランティア論に引き続き、実際の活動内容を深く理解するため、講義とゲストスピーカーの話を中心とした内容となります。さまざまな実践活動の理解の中から、今後の方向が明らかになる、あるいは受講生の意見の中でよりよい改善が施されるかもしれません。また、実践経験のない人も、ここで活動の内容に触れることで一歩を踏み出すきっかけがつかめるかもしれませんし、すでに実践経験のある人は自分の活動を見直すきっかけにしてもらいたいと思います。

2.学びの意義と目標

被災地支援のボランティアに限らず、自分たちの日常レベルでのさまざまなボランティアの実情と意義に触れていきます。あなた自身、将来ボランティアに関わるか、もしかしたらボランティアの支援を必要とする立場になるかもしれません。聞いておく価値はあります。

準備学習(予習)

授業内容に即して、各人の体験や考えをまとめさせるので、指示に従って事前に用意しておくこと。また、基礎的な用語については事前に調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で取り上げた内容に関して、類似の事例を確認しておくこと。ボランティアは、個々の事例に対応してゆく柔軟さが求められるので、その多様な在り方を学んでゆくこと。

授業計画

1. オリエンテーション・ボランティアの定義と活動分野
2. 本学のボランティア活動支援センターとボランティアコーディネーション
3. 大学生とボランティア
4. 大学生と地域とボランティア
5. 市民活動・NPO法人とボランティア
6. バリアフリーマップとボランティア
7. ワークショップ1「ボランティアの種を探す」
8. 実際のボランティア活動を知る1「災害ボランティア」
9. 実際のボランティア活動を知る2「コミュニティ活動ボランティア」
10. 実際のボランティア活動を知る3「環境ボランティア」
11. 実際のボランティア活動を知る4「国際ボランティア」
12. 実際のボランティア活動を知る4「地域文化ボランティア」
13. ワークショップ2「ボランティア講座企画」
14. ワークショップ3「ボランティア講座企画」発表
15. ボランティア実践論のまとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)最終レポート:60% (2)授業内小レポート:40%

ボランティア論

担当者：渡辺 正人, 佐野 正子, 助川 征雄

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

ボランティアを論じることは「走る」「生活する」「愛する」ことを論じるくらいに多様であり曖昧であり、そして自由でもある。実際にボランティア活動をする（「これはボランティア活動に違いない」と自分が思っているものでも可）の中で出会った「ヒト」「キモチ」「ジツタイ（見えないものも含む）」など様々なことがボランティアを考える上で大きなエッセンスにもなりうる。そのような前提のうえで、「ボランティア」について柔軟に多角的に考え、また時には逆説的に、少し懐疑的にも考えてゆく。

2.学びの意義と目標

今、ボランティアの意義は増し、また多様化している。ボランティアとは何かということと、ボランティアをするための多角的な視点を理解することが目標である。

準備学習(予習)

授業内容に即して、各人の体験や考えをまとめさせるので、指示に従って事前に用意しておくこと。また、基礎的な用語については事前に調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で取り上げた内容に関して、類似の事例を確認しておくこと。ボランティアは、個々の事例に対応してゆく柔軟さが求められるので、その多様な在り方を学んでゆくこと。

授業計画

1. ガイダンス
2. ボランティアの歴史 1
3. ボランティアの歴史 2
4. ボランティアの歴史 3
5. ボランティア活動のための理論と要点 1
6. ボランティア活動のための理論と要点 2
7. ボランティア活動のための理論と要点 3
8. ボランティア活動のための理論と要点 4
9. ボランティア活動のための理論と要点 5
10. ボランティア活動のための理論と要点 6
11. ボランティア活動の方法 1
12. ボランティア活動の方法 2
13. ボランティアの実際 1
14. ボランティアの実際 2
15. ボランティアの実際 3

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)最終レポート:70% (2)授業内小レポート:30%

見るアート

担当者：喜田 敬

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

(1) 内容 「見るアート」は、視覚によって認識できるような芸術作品のことであり、絵画・彫刻・版画・写真などが含まれる。こどもは生まれたときから様々な視覚的刺激に囲まれて育つ。こどもが育つ過程で与えられる視覚刺激は、実に多様である。本講義では、様々な時代の人々が残した多様な芸術作品や、芸術作品として耐えうる絵本などを紹介し、多角的に解説していく。さらに、実際の作品に触れる機会も提供する予定である。これらのことを通して、受講生が、視覚芸術を味わい楽しめるようになることを目指している。

(2) カリキュラム上の位置づけ こども心理学科の専門科目であり、1年次から履修することのできる選択科目である。

(3) 学びの意義と目標 人は視覚を通して様々な情報を得ており、心理学の重要な研究分野の一つである。またアートが人の感情や情緒に及ぼす影響も大きい。この人の心と密接な関係にある視覚的な芸術作品に触れ、理解することは、心理学を学ぶ上で重要な意義を持つ。

2.学びの意義と目標

芸術を生み出した人間理解にはじまり、民族、宗教、年齢の違いと芸術に目を向け、人間と芸術の関係を考える。

準備学習(予習)

指定した教科書の箇所を必ず読む。

準備学習(復習)

配布したプリントを再読し、ノートとともにファイルする。

授業計画

1. 宗教とアート「フランコ・カンタブリア」
2. ルネサンス(1) ローマ教会とギリシア哲学
3. ルネサンス(2) プロテスタントと北方ルネサンス
4. 透視画法
5. 浮世絵と印象派(1)
6. 浮世絵と印象派(2)
7. Walkabout 鑑賞(1)
8. Walkabout 鑑賞(2) ディスカッション
9. ミフィー「モンドリアンとマチス」
10. 子どもの絵と大人の目(1)
11. 子どもの絵と大人の目(2)
12. DBAE(1)
13. DBAE(2)
14. 絵本
15. 試験・まとめ

教科書

高階秀爾 『西洋美術史』(美術出版社)

評価方法

(1)出席・試験:80% (2)レポート:20%

病と健康の科学

担当者：中村 馨男

開講期：春学期 必修・選択：選択科目/必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義は、人類の健康に脅威となった疾病の原因とその予防について概説する。主な分野は、感染症、生活習慣病、環境要因に起因する疾病などである。健康とはなにか、人類はこの数百年に限っても、どのような病の脅威と戦ってきたかについても理解できるように構成されている。

2.学びの意義と目標

1.健康を脅かす様々な要因について理解する。
2.感染症とその予防について理解する。
3.生活習慣病の要因と予防について理解する。
4.健康の定義とプライマリーヘルスケアについて説明できる。
以上を通して、健康の維持・増進と疾病予防について理解し、子ども期の健康の維持・増進に働きかける保健科教諭の実践的な技能を身につける。

準備学習(予習)

予習の課題、次回のキーワードを提示する。

準備学習(復習)

その日のキーワード、授業の終わりの小テストで疑問の点、返却された前回小テストで誤答の箇所は復習してほしい。

授業計画

- 1.健康を脅かす様々な要因(目標1)
- 2.感染症とその予防1.「感染」とはなにか(目標2)
- 3.感染症とその予防2.免疫と予防接種(目標2)
- 4.感染症とその予防3.結核とインフルエンザ(目標2)
- 5.感染症とその予防4.コレラ、O157、ノロウイルス(目標2)
- 6.感染症とその予防5.AIDS、MRSA(目標2)
- 7.電離放射線、紫外線(目標1)
- 8.熱中症と体温調節(目標1)
- 9.成人病と生活習慣病、一次予防(目標3)
- 10.悪性新生物とその予防(目標3)
- 11.心疾患とその予防(目標3)
- 12.脳血管疾患とその予防(目標3)
- 13.糖尿病と合併症、およびその予防(目標3)
- 14.健康の定義とプライマリーヘルスケア(目標4)
- 15.まとめ(目標1~4)

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)受講態度:20%:積極性、着席位置(2)毎回の小テスト:30%
- (3)期末テスト:50%

ヨーロッパ文化学

担当者：原 一子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

ヨーロッパ文化は、ヘレニズム、ヘブライズム、ケルト・ゲルマン、ローマ帝国などの諸要素から成り立っている。そこでこれら要素についてまず理解を深め、更にヨーロッパ文化に大きな刺激を与えたイスラム教についても学ぶ。講義後半では、修道院、巡礼、教会建築、都市生活、伝説・民話、ヨーロッパ人のメンタリティなどについても取り上げ、生きたヨーロッパ文化を基礎から学ぶことができるように講義を進める。

2.学びの意義と目標

「世界のこども」「日本文化学」とともに、環境・文化系の選択必修科目である。ヨーロッパ文化について、それを構成する諸要素を基礎から理解することによって、全体としてヨーロッパとは何かを理解することが本講義の目標である。

準備学習(予習)

1. ヨーロッパ文化の背景にある歴史的知識を下調べし、整理できるようなサブノートを作成し、世界史の重要項目を自習する。
2. 配布された資料を前もって読み、コメントを書いた上で授業に臨む。

準備学習(復習)

授業に出てきた事項の歴史的背景や重要項目を一層詳しく調べる。

授業計画

1. ヨーロッパとは何か - ヨーロッパ文化を構成する諸要素
2. ヨーロッパ文化の歴史的形成 1 - 古代ギリシアの文化 1
3. ヨーロッパ文化の歴史的形成 2 - 古代ギリシアの文化 2
4. ヨーロッパ文化の歴史的形成 3 - 古代ギリシアの文化 3
5. ヨーロッパ文化の歴史的形成 4 - ケルト・ゲルマンの文化 1
6. ヨーロッパ文化の歴史的形成 5 - ケルト・ゲルマンの文化 2
7. ヨーロッパ文化の歴史的形成 6 - ヘレニズムとローマ帝国 1
8. ヨーロッパ文化の歴史的形成 7 - ヘレニズムとローマ帝国 2
9. ヨーロッパ文化の歴史的形成 8 - キリスト教・イスラム教
10. ヨーロッパ文化の発展 1 - 信仰への情熱 修道院
11. ヨーロッパ文化の発展 2 - 信仰への情熱 巡礼
12. ヨーロッパ文化の発展 3 - 信仰への情熱 教会建築
13. ヨーロッパ文化の発展 4 - 合理精神の誕生
14. ヨーロッパ文化の発展 5 - ヒューマニズムと啓蒙思想
15. ヨーロッパ人のメンタリティー

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験またはレポート:50% (2)出席:30% (3)受講態度:20%
期末考査を試験にするかレポートにするかは、履修者数によって、初回の授業時に決定する。

臨床心理学概論

担当者：藤掛 明

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目/必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

臨床心理学が、実践の知の学問であることを考慮し、典型事例の検討、グループ討議、模擬カウンセリングなど、体験的な学習を取り入れる。臨床心理学の基本的な事柄を後半に扱うとともに、臨床現場における臨床心理学関連の仕事の概観することに努め、今後の学習のための基礎および、問題意識を与える。

「認定心理士」資格では、「選択科目a」（心理学概論）に区分される科目である。

2.学びの意義と目標

心理アセスメントや心理療法の全般を理解できるようになり、実際の心理職の活動状況を知ることができる。そのことで、今後、専門科目の学びの土台とすることができる。

準備学習(予習)

授業計画や、授業内で行う予告を参考に、インターネットなどで情報を集めたり、関連資料を読むなどしておくこと。

準備学習(復習)

配付資料を再読するとともに、授業で配布する復習用資料（授業新聞）を使って、授業の中心点を考え、他の学生の意見を読むなどすること。

授業計画

- 1.臨床心理学とは（ストレス評価から考える）
- 2.臨床心理学とは（カップルカウンセリングから考える）
- 3.臨床心理学とは（正常と異常の概念から考える）
- 4.心理アセスメント（質問紙テスト、行動観察、面接）
- 5.心理アセスメント（投影法）
- 6.心理療法（精神分析）
- 7.心理療法（行動療法）
- 8.心理療法（クライアント中心療法）
- 9.心理療法（芸術療法）
- 10.心理療法（日本で生まれた心理療法）
- 11.心理療法（家族療法）
- 12.実践領域（教育・福祉・司法・矯正）
- 13.実践領域（医療・産業・開業）
- 14.臨床心理学の学び方、資格
- 15.全体のまとめ

教科書

プリントを配布する
毎回関連資料等を配布する。
【参考書】毎回授業内で紹介する。

評価方法

- (1)ミニテスト:25%:適宜授業内で行なう
- (2)授業態度:25%
- (3)授業内テスト:50%:最終授業内で行なう

倫理学 A

担当者：原 一子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

ソクラテスは、「大切なことは、ただ生きるのではなく、より善く生きることだ」(『クリトン』)と語ったが、「倫理学A」では、その「より善く生きる」ことについて、日常、私たちがいかに考え行動しているか、という身近な問題から出発して、それを倫理思想との関わりにおいて理解する。その上で、善悪、義務、価値、幸福など、倫理学の根本問題や倫理的行為の主体である人間とは何かという問題についても考察する。

2.学びの意義と目標

「より善く生きる」ことについて人々がいかに考えてきたかを学ぶことは、学問的のみならず、われわれ一人ひとりの生き方を考える上でも極めて重要なことである。ましてや、こどもの倫理性を育成するためには、こどもに関わり、寄り添う者自身の倫理観、価値観の確立は不可欠である。

準備学習(予習)

1. 配布資料を前もって読んで上授業に臨む。
2. 毎回必ず、次回までの学習課題を出すので、各回ごとの指示に従って課題をこなすこと。

準備学習(復習)

前回の授業の要旨を纏め、自分の意見や調べたことなどを加え整理して、提出する。

授業計画

- 1.はじめに 「善く生きる」とは何か - 日常の倫理的葛藤
- 2.9個の菓子を7人で分ける - 「正しい」分け方は？
- 3.誰が救命ボートに乗るべきか？ 映画「タイタニック」から
- 4.人間の基本的条件 - 人権と平等について考える
- 5.倫理的行為の主体 - 人間とは何か
- 6.人間の本性を巡って - DVD「ヒューマン」
- 7.倫理とは何か 1 - 倫理・道徳・法・掟・慣習・契約
- 8.倫理とは何か 2 - 倫理・道徳・法・掟・慣習・契約
- 9.私たちはなぜ盗みや殺人をしないのか - 功利主義の考え方
- 10.正しい殺人はあるのか - DVD「サンデル教授の白熱授業」
- 11.私たちが善いことをするのはなぜか - カントの道徳法則
- 12.快・不快と善・悪
- 13.善とは何か 悪とは何か
- 14.幸福と正義
- 15.まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験またはレポート:50% (2)出席:30% (3)学習態度:20%
期末考査を試験にするかレポートにするかは、履修者数によって、初回の授業時に決定する。

倫理学 B

担当者：原 一子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

「倫理学A」では日常の倫理的場面、倫理的行為の主体である人間の理解、倫理的行為成立の条件などについて考察したが、「倫理学B」では、快・不快、善・悪、価値などの倫理的問題がいかに考えられてきたかを、古今東西の倫理思想史に触れつつ考察する。プラトン、アリストテレス、カント、ベンサム、諸子百家、和辻哲郎などの文献も講読しつつ倫理学への理解を深める。

2.学びの意義と目標

「より善く生きる」ことについて古来いかに考えられ、それが現代社会にいかにも実現されているかを学ぶことは、学問的のみならず、われわれ一人ひとりの価値観の確立のためにも極めて重要である。ましてや、こどもに寄り添い、倫理性を育成するためには、こどもに関わる者自身の倫理観、価値観の確立は不可欠である。

準備学習(予習)

1. 配布資料を前もって読んで授業に臨む。
2. 毎回必ず、次回までの学習課題を出すので、各回ごとの指示に従って課題をこなすこと。

準備学習(復習)

先回の授業の要旨を纏め、問題点や、自分で考えたり調べたりしたことを加えて整理し、提出する。

授業計画

- 1.はじめに - 倫理とは何か、倫理学とは何か
2. エトスとエートス - アリストテレス・孟子・和辻哲郎
3. 「べき」と「である」
4. 倫理思想史 1 - 倫理学の誕生 1 ソクラテス以前
5. 倫理思想史 2 - 倫理学の誕生 2 ソクラテス
6. 倫理思想史 3 - ポリスの正義 プラトン
7. 倫理思想史 4 - ポリスの正義 アリストテレス
8. 倫理思想史 5 - 倫理的判断は先天的か イギリス経験論
9. 倫理思想史 6 - 倫理的判断は先天的か カント
10. 倫理思想史 7 - 倫理的判断は先天的か 功利主義
11. 私たちはなぜ悪いことをしないのか
12. 倫理思想史 8 - 価値の序列 シェーラー
13. 倫理思想史 9 - 主体性の倫理学とその問題点
14. 幸福とは何か
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)試験またはレポート:50% (2)出席:30% (3)受講態度:20%
期末考査を試験にするかレポートにするかは、履修者数によって、初回の授業時に決定する。